



國際協力專業團
研修專業部



韓国青年招へい事業

JICA LIBRARY



1092693(9)

32705

1989

青業

JR

90-12

国際協力事業団

22705

序

「韓国青年招へい事業」は本年度第3回目を迎え、勤労青年、学生、教員および青年指導者の4グループ計99名を受け入れました。

青年たちは1カ月の滞在期間中、講義、視察、機関訪問、合宿セミナー、ホームステイと東京および地方4県に分かれて多様な経験をいたしました。

本報告書は、各グループの2～3名の青年に記して頂いた感想文と日本側の合宿セミナー参加者、ホストファミリーの体験談を中心にまとめたものであります。本事業に参加された皆様の思い出のよすがとなり、また参加者の体験をより多くの方々に共有して頂くことを願うものです。

なお、この報告書は韓国語版を併せ作成し、参加青年の皆様にお送りいたします。終わりに、本計画に温かいご理解とご協力をお寄せ下さいました関係者の皆様に心から御礼申し上げます。来年度以降、ますます有意義なプログラムにしていきたいと考えておりますので、引き続きご支援賜りますようお願い申し上げます。

平成2年3月

国際協力事業団
研修事業部
部長 御手洗 章弘

信頼と友情への第一歩

平成元年度韓国青年招へい事業



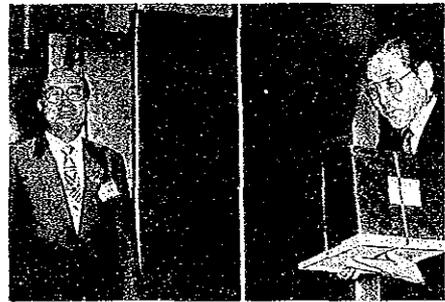
国際協力事業団岸副総裁の歓迎のあいさつ



朴団長のあいさつ



1カ月のスケジュールに思いをはせる



朴団長より記念品の贈呈

歓迎会



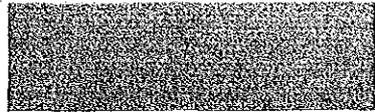
共通プログラム



日本語の会話練習



武道の体験



都内分野別 プログラム



労働省訪問



文部省訪問



浅草を見学



茶道を体験



プロ野球の試合観戦

合宿セミナー



互いに仲間を紹介



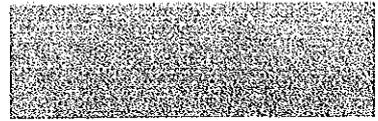
交流パーティー



熱のこもった討論



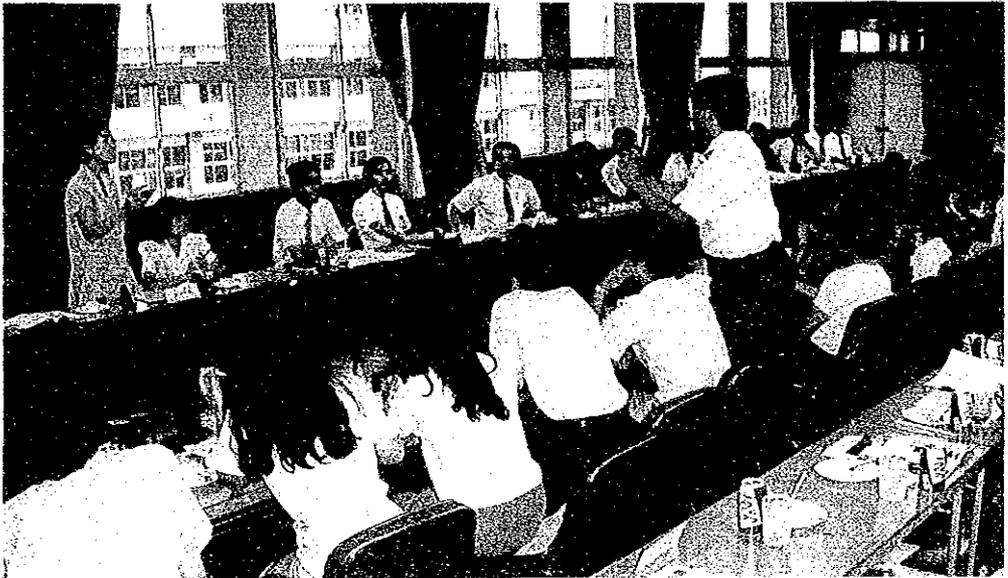
レクリエーション



地方分野別 プログラム



県知事表敬訪問



活発な質疑応答



スイカ割りに興じる



日本の青年たちとの交流会



生け花に挑戦

ホームステイ

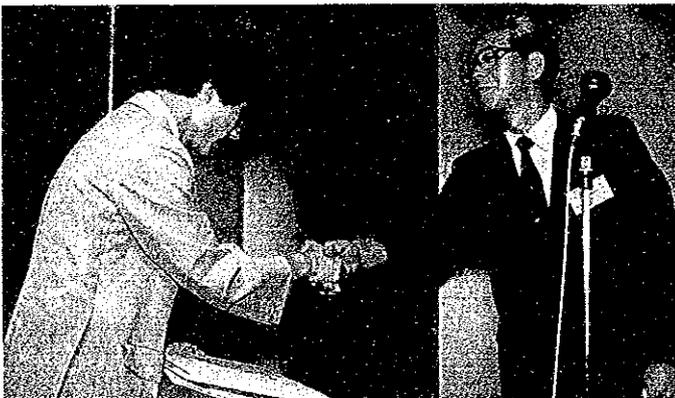
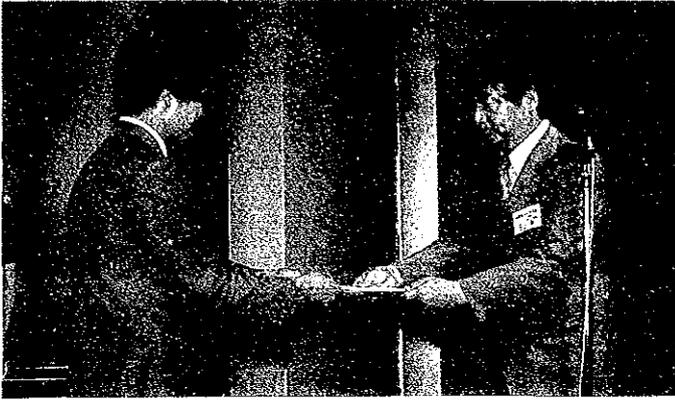


浴衣を着て



くつろいで食事

歓送会



各グループの班長に参加証とアルバムを授与



国際協力事業団山上青年招へい業務室長のあいさつ



朴団長の謝辞



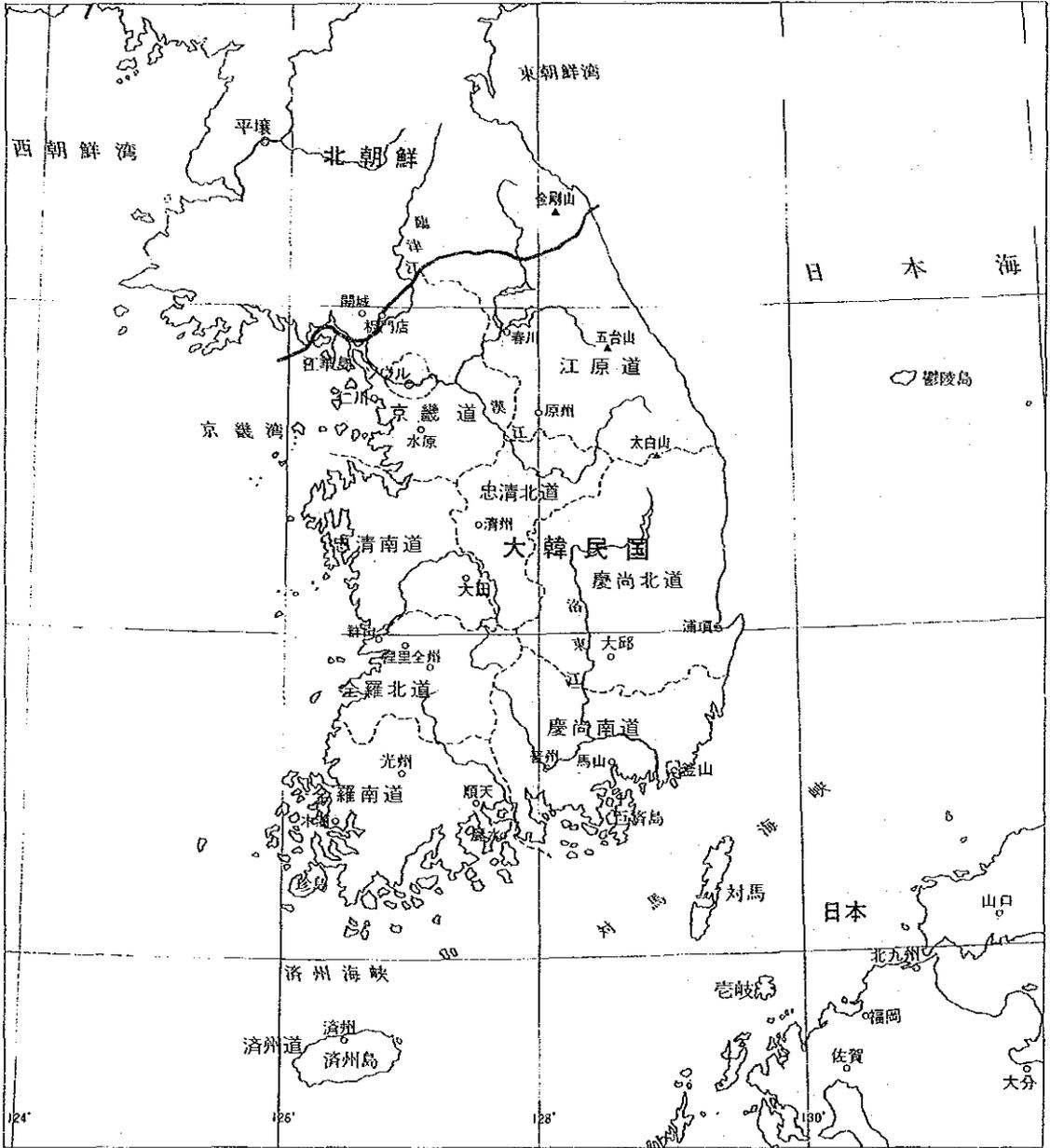
余 興



目 次

序

1. 韓国青年招へい事業	
(1) 事業の概要	3
(2) 実施協力団体と実施県	5
2. 招へい青年の印象	7
3. 合宿セミナー参加日本青年の声	15
4. ホストファミリーの思い出	21
〈実績資料〉	
1. 韓国窓口機関（現地プログラム実施機関）	26
2. 現地プログラム実施日程	26
3. 国内実施日程	27
4. 韓国青年名簿	31
5. 韓国青年招へい実績一覧	40
6. 平成元年度青年招へい事業受け入れ実績一覧	41
7. 青年招へい事業実施協力団体連絡先	42



1. 韓国青年招へい事業

(1) 事業の概要

1) 事業の目的

21世紀に向けて、日本と韓国との友好と協力の関係をより強固かつ実りあるものとするため、未来の国造りを担う韓国の青年を我国に招へいし、日本の同世代の青年との交流を通じ、相互理解を深め、真の友情と信頼を培うことを目的とする。

2) 実施方法

①招へい人数

平成元年度は、99名の青年を同時期に受け入れる。

②招へい対象者

下記分野における指導的立場にある18～35歳前後の青年。

(各グループのリーダー、サブリーダーは除く)

招 へ い 対 象 者	人 数
(i) 勤労青年	31名
(ii) 学 生	30名
(iii) 教 員	20名
(iv) 青年指導者	18名

③招へい期間及び時期

招へい期間は7月11日～8月10日までの1カ月とし、出発前、数日間の現地プログラムを実施する。

3) プログラム概要

(数日間)	現 地 プ ロ グ ラ ム	現地講師による日本についての講義 経済技術協力の現場及び日系企業の見学 日本語の日常会話の学習 渡航に係る説明
来日	共 通 プ ロ グ ラ ム	日本の全体像について、正確な理解を促進するための講義及び施設見学
(31日間)	分 野 別 プ ロ グ ラ ム	各分野の全体像について、正確な理解を促進するための講義及び施設見学
	合 宿 セ ミ ナ ー プ ロ グ ラ ム	日本の同世代同分野の青年と寝食を共にする、意見交換、交流の場
	地 方 分 野 別 プ ロ グ ラ ム	地方における関連施設の見学、地方青年との討論、体験、交流等のプログラムの展開
	ホ ー ム ス テ イ プ ロ グ ラ ム	日本の家庭生活の体験
	見 学 旅 行	広島、京都等歴史的都市の見学
帰国	評 価 プ ロ グ ラ ム	滞日成果について意見交換
	ア フ タ ー ケ ア	事業効果を持続するための各種の施策

4) 受け入れ体制

本計画を円滑に実施するため次の2委員会を設置する。

①関係省庁調整連絡会議

(i) 任務：本計画の実施及び運営に係わる基本的事項につき協議。

(ii) 構成メンバー：

外務省経済協力局技術協力課

農林水産省経済局国際部国際協力課

アジア局地域政策課

労働省大臣官房国際労働課

大臣官房文化交流部文化第二課

自治省大臣官房企画室

総務庁青少年対策本部

国際協力事業団

文部省学術国際局国際企画課教育文化交流室

②実行連絡調整委員会

(i) 任務：実行計画の運営、分野別プログラムの実施及び各プログラム間の連携につき協議し、プログラム実施上の問題につき、国際協力事業団に対し助言。

(ii) 構成メンバー：関係省庁より推薦された民間の実施協力団体。

- | | |
|-----------------|------------------|
| (社)青少年育成国民会議 | (財)勤労厚生協会 |
| 中央青少年団体連絡協議会 | (財)ユースワーカー能力開発協会 |
| (財)世界青少年交流協会 | (財)国際交流サービス協会 |
| (財)日本国際生活体験協会 | (財)青年海外協力協会 |
| (財)全国農村青少年教育振興会 | (財)国際協力サービス・センター |
| (財)日本経済青年協議会 | |

5) 実施運営分担

	プログラム 実施・監理	プログラム運営		食事・宿舎の 手配
		連絡・調整	運営	
現地 プログラム	国際協力事業団	国際協力事業団 (国際協力 サービス・センター)	各国実施機関 (在韓国日本国 大使館)	各国実施機関 (在韓国日本国 大使館)
共通 プログラム (都内)		国際協力事業団 国際協力 サービス・センター	国際協力 サービス・センター	国際協力 サービス・センター
都内分野別 プログラム (都内)		実施協力団体	実施協力団体	実施協力団体
合宿セミナー プログラム				
地方分野別 プログラム (ホームステイを含む)		実施協力団体 地方協力団体 (国際協力事業団 国内支部)	地方協力団体 (国際協力事業団 国内支部)	地方協力団体
見学旅行 (広島、京都等)		実施協力団体	実施協力団体	実施協力団体
評価 プログラム (都内)		国際協力事業団	国際協力 サービス・センター	国際協力 サービス・センター

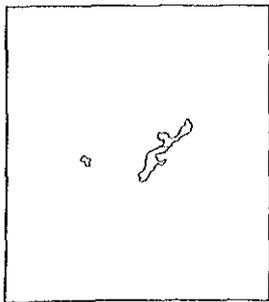
(注) 地方分野別プログラムは、地方公共団体の指導と協力を得て実施する。

(2) 実施協力団体と実施県

分野名	人数	実施協力団体	実施県
勤労青年	31	勤労厚生協会	宮城
学生	30	世界青少年交流協会	香川
教員	20	国際交流サービス協会	北海道
青年指導者	18	青少年育成国民会議	島根

※共通プログラムについては、国際協力サービス・センターが全グループに対して実施した。

プログラム実施県図



2. 招へい青年の印象

感想文



安 承德
勤労青年グループ

われわれは、日本と日本人をどれほど知っているだろうか。日本に来る前に持っていた考えと今の考えはどのように違い、どれほど変化しているだろうか。日本訪問のすべての日程をほとんど終えようとしている今、名残惜しきとともに多くの疑問が湧いてくる。

言葉だけで聞いてきた日本、地理的には近いのに反比例して遠く感じていた国、あるときは近い隣人として、あるときは血を流しながら対立し戦っていた国として認識されてきた。

敗戦後の日本がこれほど早く経済的な成長を遂げ、世界最高の富裕国となったのを眺めながら、「ただ歴史的な幸運で豊かになったのであり、日本は運がいい」とさざりと言いついてしまうことはできないと思った。

日本人の日常生活の中に入り込み、彼らの実生活を見聞きし、感じることでできるプログラムであるホームステイの日程に、特に多くの感銘を受けた。

文化の習慣が違い、意思疎通も思うようにいかない外国人に平凡な自分たちの姿を見せようという努力や、合理的な時間の活用しかた、金持ちらしくない質素な生活などは、われわれもぜひ見習うべきであると思った。

日本の農村とて問題がないわけではないが、最善を尽くし、農村に残り、故郷を守ろうとする農村青年たちとの出会いは、都市では味わえない温

かい人情があり、夜の更けるのも忘れて語り合った。

都市の青年たちとの出会いで、自分の仕事と会社に誇りを持ち、一生の職場であることを強調していたことや、農村青年たちの明るい未来設計の説明を聞きながら、やはり日本の発展は偶然に得られた結果ではなく、すべての人々の血のにじむ努力により創造されたものだという気がした。

もう1つ良かったプログラムは見学旅行であった。

他のプログラムに比べてなおざりにされがちな日本の地理気候を実際に体験できる貴重な機会であったばかりでなく、史跡などの訪問により文化と歴史も学べた。

国家間の関係は政治・経済情勢の変化につれ変わることもある。

しかし、若者たちが膝を付き合わせて、分かち合った友情はたやすく消え去りはしないだろうし、個人個人が集まってつくられる国民の力は国家間の関係を左右させ得ると信じる。

とにかくわれわれは、帰国してからも末長く友情を分かち合うことであろうし、いつまでも日本人が見せてくれた友情と親切を記憶するであろう。

感想文



洪 光先
勤労青年グループ

窓の外に消えゆく街の灯りを見下ろしながら吐き出す煙草1本の煙ときついウイスキー一杯の雰囲気の中で、手につかめそうな私の故

郷を恋しく思うのも、結構いいものではなかろうか。

初めは31日という長い旅程を他国で過ごすと思っただけでも心が躍り、その反面では大韓民国青年代表という名分の前に緊張せざるを得なかった。ともかく他国であるという観念の中で始まった旅行は、時がたつほど混乱をもたらした。日本と大韓民国の距離が飛行機で2、3時間ということに実感が湧かず、街も似ており、人々の姿もまったく同じであった。韓国語で話しかければすぐ答えてくれるような気さえした。

とはいえ、新しいイメージの中で、池袋の1週間は団員全員にとっても大きな意味をもたらしてくれたようだ。

まず日本語で対話を始めなければならなかったし、口に合わない食べ物も食べなくてはならなかったためだ。そのほかにも、街を見物したり買い物をしたり酒を飲んだり、すべてのことが目新しかった。その目新しさの中で始まった日程を、より輝かしいものとしたのは全員が若者であったからだという考えは、間違っていないだろう。若者であるゆえの特権として1つに溶け合い、国家という概念も理念もなかった。握り合った手には、ただ、熱い血が流れ、深いほほ笑みがあふれているだけだった。

そこで若者として次のような一文の意味を考えてみてはどうだろうか？

蒼空をつかみたい
あの空に何がありますか
ベールの中に何があるのだろう
しかしベールをはいでもはいでも、
ベールに隠されたところに
何かあるような気がする
それゆえ、蒼空をつかみたい
神秘というものを手の内に収めたくて
未知の世界が愛しく見上げる瞳に

力があふれるのは
われわれが若者であるため
蒼空をつかもうとするのだろう

今、ここでの生活を清算しなくてはという思いで周囲を整理しなくてはならない。

多くの紆余曲折も、あきれ返るくらい笑うしかなかったミステリーも、日本国の旅行という過程であったから可能であった。

皆が健康な体で本国に帰り、以前の生活に1日も早く慣れて、もう少し大人になった姿で、会えることを祈る。

1カ月間の日本滞在を終えつつ



朴 敬愛
勤労青年グループ

“牛をなくしてから牛舎をなおす”（あとの祭り）ということわざがある。私は、韓国に帰ってから英会話や日本語会話を勉強することになるのではないだろうかという気がする。自分の感情と考えをそのまま表現できないときのもどかしさときたら、それこそうあ者の気持ちがよく分かるほどであるが、たまらなくもどかしいものである。

このように言語・習慣・風物・文化自体が違う国での1カ月の生活は、楽なものではなかった。友情交流という大きなテーマを背負ったわれわれの1カ月の生活はとても多種多様だった。

プログラム自体も多様だった。分野別に特色を出すため別行動した点は理解できるが、お互いの共通した部分を見出すことのできなかった半導体研究所見学や、両国青年合宿セミナーにおける韓国青年による一方的な話し合い、日本青年の参加が極端に少ない日韓青年討論会、専門知識の注入式講義等はもう少し細やかな配慮を要する事項

であった。

とはいえ、反面、両国青年合宿セミナーはホームステイと同じくらい期待されるプログラムの1つであった。気持ちの伝達、交流が非常に難しい状況であるにもかかわらず、2泊3日が短いとしか感じられなかったのは、「若さ」それだけでも十分対話でき、お互いがお互いを知ろうとする積極性と好奇心により心と心の対話ができる場になりえていたからではないかと思う。名残惜しくて涙を浮かべたあの別れのときが永久に心に残るであろうし、また、互いの考えを交換したい気持ちから交流はずっと続くであろうと思う。

特に、ホームステイプログラムにより結ばれた日本家庭との交流と思い出は「21世紀のための友情計画」のハイライトになったと思う。小さなことにも真心を尽くす態度、国家的な次元の仕事だという責任感からでなく、各自個人のやり方で1つ1つの仕事に真心を尽くす誠実な生活態度などから多くのことを学び、帰国する。

私が2泊3日お世話になったのは、ご両親となごやかな家庭を築いている岸田俊一氏の家だった。いろいろなことがあったが、その中でも一番思い出に残っているのは、3日目になる最後の日、仙台JICの会員たちとともに街頭募金をしたことだ。仙台市民が最も多く行き来する街角での募金であっただけに市民の街での表情を読み取ることができ、より包括的に日本を理解できたのではないかと思う。その会員の中に、2時間だけの出会いにもかかわらず、韓国語会話の本を見ながら韓国語であいさつを交わすほどの熱心さを見せてくれた人もいた。

最後の日の別れは名残惜しかったが、岸田俊一氏が私に見せてくれた好意と真心は、いつまでも記憶に残るであろう。

短い期間であったが、たくさんの別れを経験した。金浦空港を発つとき、愛する家族と親しい友人たち、そして何よりも私が任されている分野の

仕事と人々と1カ月とはいえ離れるのがつらかった。そして日本での出会いと別れ、体験的日本語学習のときに会った堀口さんともう一度会いたい気がする。

これらすべては、私にとって貴重な思い出であり、いつまでも胸の中に大切にしまっておくつもりだ。そして、このような機会を私に与えてくれた科学技術処と文教部、JICAの皆様方に感謝の意を捧げる。

日本の皆様に捧げる



高 錫杜
学生グループ

日本の皆様お元気ですか！
私は貴国に招へいされ、1カ月間日本を訪問致しました1人の韓国人大学生です。

滞在期間中、日本の皆様方の温かいご好意と親切に深く感謝します。

私は日本のいろいろな所を見て回りながら、多くのことを学び、感じることができました。日本の清らかで秀麗な自然景観と、あちこちに散在している独特な美しさを持つ文化財、その文化財の保存に力を注ぐ日本国民の心配りは、本当にうらやましい限りでした。特に日本の大学生たちと3泊4日合宿しながら交わした隔たりのない対話、香川県でのホームステイ体験は、本当に忘れ難い思い出になると思います。

日本各地での見学が、日本を幅広く理解する機会であったとするならば、合宿セミナーとホームステイ体験は日本をより深く理解するいい機会であったと言えます。

以前、日本に来る前までは、私は日本に対して良くない感情を抱いていました。それは、日本と韓国の好ましくない過去の歴史にこだわっていたからです。今回広島市の平和公園を見学し、再び過

もうすべての日程が終わろうとしている。私は、今回の日本訪問を通して日本という国をより良く知ることができた。不幸であった過去の歴史を振り返って、深く考えさせられることも多かった。私の排他的な考え方が未来志向的で進取の気に富んだ考え方に変わり以前とは違った多くのことを学んで帰国できる自分に誇りと喜びを感じる。

終わりに、この事業を担当して下さったJICAの皆様にも心より深くお礼申し上げますと同時に、来年はより良いプログラムになるよう御尽力をお願いしたい。

.....

日本訪問を終えるにあたって



劉 哲受
学生グループ

私たちが成田に到着したときは4時を少し回っていたが、太陽はまだ熱い日射しを投げかけていた。混雑した入国手続きと「しばらく待機せよ」という指示に私はうんざりし、それだけで疲れ果ててしまった。やっと乗り込んだバスは気持ちよく走り出した。私は心地良い振動に身をまかせながらも、「日本の経済成長を支えてきた原動力はいったい何なのだろう」という疑問にとらわれていた。ホテルに着き荷物の整理を終えてから窓際のソファに腰を下ろすと、自然に長いため息が出てきた。窓の外には物静かで秩序正しい日本人たちの姿が見えた。日本人に対して、私はまず良い印象を受けることができた。このようにして始まった日本訪問であったが、1カ月の滞在を終えようとしている今も、最初の印象は一貫して変わらなかったように思える。

1カ月。

もう、ひと月が過ぎようとしている。

「帰国する」という表現が過ぎ去った時間の速さを改めて感じさせてくれる。若さと青春を発散

すべき20代に、私は一生忘れることのできない思い出とロマンを心に残すことができた。そして名残を惜しむ思いが心から離れず、日本との別れの意味を私に問いかけてくる。

小さな国である韓国の中でも済州島という限られた地域で育った私にとって、このようなよい体験を得られたことを本当にうれしく思う。縮み志向的といわれる日本を考え理解する上に、大変役に立った。日本人たちを直接肌で感じ生活をもにしたホームステイや学生たちとの合宿セミナーは、日韓関係における両国の位置づけを考えさせてくれたが、同時に改めてわが祖国、わが国家を愛する気持ちを強くかきたてもした。過ぎ去った過去にこだわり、日本に対する憎悪心にとらわれていた私にとって、今回の訪問は新しい意味を与えてくれ、日本に対するイメージが改善された。

日韓関係において無意味な自尊心よりは理解しよう、という心を持って臨みたいと思う。“親日”ではなく日本を知るという意味での“知日”を目指したい。私たち韓国学生代表団の胸中には、この機会を足がかりとして世界の若者となるべく力強くはばたこうとする固い決意が芽ばえつつあるように思う。また、自分はどこに位置し、心構えはどうあるべきか、それが少しは分かってきたような気がする。

最後にこのような国際交流に努力されていらっしゃるJICAの皆様方に深い感謝の意を表し、私の拙文を終わりたいと思う。

.....

人生とは何か



張 英周
教員グループ

人生とは何か？ これは悲観の言葉ではない。人生は一生であると結論づけようとする言葉だ（もちろん、俗物的な私が出した結論だ

が)。

ときめきと不安が比例して過ぎた日々。今、振り返ってみると、それは胎動の始まりであった。

口に合わぬものを食べなければならなかったわれわれの不運(私たちが国際感覚に鈍いため)。目に映る、なじまぬ瞬間瞬間をのがすまいとする私の瞳の中に映された日本の姿に、あっ!! どうしよう! 私の祖国、私の故郷に残した足跡が背を向けてしまう。

「故郷が懐かしくても、行けない身の上…」(「夢に見た故郷」という歌の一節)とだれかれなく皆で合唱しながら目頭が熱くなったこと。懐かしい祖国をしのび、首を長くして(祖国に帰る日を待ち)、眠っている広島原爆碑の前で、かすかに震える手で杯を捧げながら、同胞愛で胸がいっぱいになったこと。

さぞ30日は長かった日々であったろう。愛する末っ子の帰国を前にした、天国への旅立ち。異国のホテルの小さな部屋に全員集まって、灯した燭台のあかりと線香の香りに胸をつまらせた8月1日(来日中に母上が永眠された方がいた)。

ああー!!

30日間に、日本で自動車のクラクションの音を何回聞いた? 日章旗が掲げてあったのを何度見た? あるいは街路灯がチカチカしているのを見かけたことはあるのか? パーマヘアーの女性を何人見た? 値札の付いていない品物はなかったか? レシートが出てこない機械はなかったか?

数多い疑問の連続の中で、答えを見つけることができなかった私の無知は、生きるということは何なのかをいまだにつかめない、愚か者であるからだろうか。

ああー!!

瞬く間に、日本を知るということは無理なのであるだろうか?

“10時”——文化と日本人と節制



張 斗錫

教員グループ

第2次世界大戦後、敗戦の苦境を乗り越えて、今日、世界の強大国になった日本のエ

ネルギーはどこからくるのであろうか? これが日本を訪問することになった1人の若い教師が、自分なりに知りたいことであつたし、教壇に立ったとき、生徒たちに教えたいことでもあつた。

初めての東京での1週間ほどの生活で、至る所で出会った外国人を見て、もはや東京は日本の東京ではなく、世界の東京なのだなあ、という思いを抱いて北海道へ向かった。

北海道の札幌市ではちょうど夏祭りが開かれていた。祭りの初日の夜、豊平川広場で延々と1時間以上も打ち上げられる花火大会を楽しんでいる様子を見ながら、日本の経済的な底力を実感し、次の日の夜は大通り公園を訪れた。

数千人の若者が生ビールと音楽を楽しみ、一方では恋人たちが仲睦まじく祭りを満喫していたが、噴水の水が止まり始めると、ビールの注文も終わり、店も締め始めたので時計を見ると、夜10時だった。「ちょうどいい気分になりかけていたのに……ああ、気が抜けた」という物足りなさを残したまま、待望のホームステイに期待しながら北海道の一地方に向かった。

ホームステイの2日目の夜、ちょうど新冠町という所に私たちの仲間4人が泊まっていたので、ホストファミリーと私たち4人が1つの家に集まった。お酒と歌と踊りで盛り上がり宴もたけなわというときに、ホストファミリーの1人が「そろそろ帰りましょう」と水を差すようなことを言い出したのだが、偶然の一致だろうか、また夜10時だった。

短すぎる日程にお互い目頭を熱くして名残を惜

しみ、北海道に思いを残したまま東京に戻ってくると、日本青年との合宿セミナーが待っていた。

ほとんどが同じ教員であったので、初日からお互いに親しくなって、合宿の最後の日には「交流の夕べ」が盛り上がり、ここが日本なのか韓国なのか分からないほど興に乗っていたが、日本青年の司会者曰く、「これで本日の公式プログラムは終わります」。ああ、また10時であった。

その時刻の意味が何であったか分かった。そして、私が探そうとしていたものを探さることができたのだ。東京では1坪でも土地を持っていると金持ちといわれるようだが、東京のど真ん中にある明治神宮の周囲に広大な森のある理由を、また、今日の日本が世界の経済大国に急成長した理由を探さることができた。

それは「夜10時文化」である。彼らは「10時」を通して日本魂を育て、そして節制とは何か、耐え、生きるということは何かを知り、その忍耐を明日の新たな大きな力として再生させたのである。また、彼らは夜10時までには若さを満喫しなければならないので、与えられた限られた時間内に、全エネルギーを最大に発散させることを通じて、いつも最善を尽くし、それによって天下主義を自然に習慣化してきたのである。このような個人個人の力を集めて、今日の世界の経済大国に導いた彼らの節制力に驚くしかなかった。

最後に一言つけ加えたいことは、広島平和記念公園と資料館を見学しながら、日本は今まで豊かな日本を築き上げるために個人個人の力を蓄積したのだから、もうこれからはこれだけ大きくなった日本の力を日本国家自らが節制できるとき、日本の平和はもちろんのこと、世界の人類の平和に貢献できるだろうと感じた。

感想文



妻 成子
青年指導者グループ

7月11日、初めての海外旅行に希望と不安で胸をいっぱいしながら、まだ明けきら

ぬ空の星を背に金浦空港に向かい家を出た。列車でソウルに着くと、激しい豪雨となっていた。こんなひどい雨の中をいったい飛行機が飛べるのだろうかと思えない気持ちで税関を通過し、JAL 954便に搭乗した。そんな私の心配をよそに霧に包まれた空に向かって無事飛び立つことができた。

2時間後、近くて遠い隣の国、日本の成田空港に到着した。日本の街をバスで通り過ぎながら、まず街路樹の青々とした茂みに国力の豊かさを感じた。そして弾むような気持ちとまごついた気持ちのまま東京の第1日目過ぎていった。

共通プログラムでは「日本の社会と文化」「産業と経済」「日本の近・現代史」等の講義を聞き、今の日本があるのはすべての国民が一体となって努力した結果であることを理解した。

共通プログラムが終わって、グループ別プログラムが始まった。霊峰富士山の頂きを目の前に臨む合宿セミナー日程をこなしながら、国家間の関係を離れ、国境を超え、個人と個人は大変近い友達になれると実感した。日本に出発する前の私が持っていた先入観はいつの間にか消えてしまっており、彼らが私の近しい隣人であるという温かい思いだけが残った。

その後、地方文化視察のプログラムの中で、鳥根県各地域の山林育成、文化遺産保存博物館、地域再開発センター、農漁村の機械化など、いろいろなものを見学しながら、地方自治制実施の必要性を痛切に感じた。そして3泊4日のホームステイ日程が1日1日と近づくにつれ、不安で夜も眠れないほどであった。

ところが、いざホームステイ家庭に到着し、身振り手振り、そして目で対話して、お互い心底心を通い合わせることができ、世界のすべての人々が皆親戚のように感情を伝え合えることを体験した。また、韓国の地方の人々の情けと日本の農村の人情が大変良く似ており、彼らの姿に真実味あふれる人間本来のあるべき姿を見る思いであった。

多様な日本の青少年のための文化施設の見学や青少年との出会い、対話する時間が、もう少し日程の中に組み込まれていたら、より良かったのではないかと思う。21世紀の青少年を指導育成する立場にある私は、今回の「友情計画」の日程の中で多くのことを見、聞き、感じた。韓国の青少年指導育成と民間レベルの国際交流、生涯学習と社会教育の必要性について、もう一度考えさせられた。私たちがすべての国民が一体となつての、国力の向上と健全な人間関係・創造力の開発、国家と社会に貢献する21世紀の青少年たちの指導育成を自分自身に誓った。

最後に日本国外務省、JICA、国民会議、関係者の皆様方に深く感謝致します。

感想文



金 承潤
青年指導者グループ

今回私たちはJICAが準備した「21世紀のための友情計画」の一員として訪日した。

この1カ月にわたる日本での生活は、日本人が好きな花火のような短い瞬間の凝縮した思い出を残して終わろうとしている。

ソウルの合宿での、気持ち悪いとっていいほど韓国語が上手なコーディネーターたちとの出会いのときから、そして東京での初めての夜、ベッドに置かれた日本式寝巻（浴衣）を戸惑いながら着たときから、私たちは日本文化の中に入ってい

った。そのときから、多くの日本人、そして彼らが創り出したものと出会う1カ月が始まった。

東京での多少退屈だったオリエンテーションと合い間の都内見学。富士山を臨むホテルでの日本青年たちとの合宿セミナー。曲緒ある湖畔の都市松江（島根県）での地方青年たちとの虚心坦懐な話し合い。一如薬寺で開かれた国際フォーラムに合流し、世界のいろいろな国の人々と手をつないで楽しんだ交流の夜。3泊4日のホームステイでの生き生きとした日本の家庭生活の体験。また、広島・京都・奈良などの見学。これらたくさんの経験を通じて、私たちは多くのことを見、学び、感じた。

今、私たちはすべての日程を終え、韓国に帰ろうとしている。増えた荷物でカバンがいっぱいになったように、私たちの頭の中もたくさんの思い出がぎっしり詰まっている。その中にあるのは何であろうか？ 美しい整然とした日本人たちの文化であろうか。親切な歓待であろうか。彼らがなし遂げた経済的な富とそれを支えた精神であろうか。3泊4日間の出会いであったにもかかわらず、別れを惜しんで目頭を潤ませてくれたホストファミリーの方たちの優しさであろうか。類以した言語体系を持っているにもかかわらず、結局は遠い国の言葉である英語をもってしか意思疎通を凶れなかったことに対する嘆きであろうか。韓国の歴史について習った時間が学校教育の全課程を通じてたったの10分にも満たなかったという、ある大学生の告白であろうか。もしくは、限りなく撮ったフィルムの量であろうか。長雨のあとの蒸すような暑さ、その暑さをいやしてくれたバスガイドの心にしみる演歌（恋歌）の調べであろうか。

これらすべてのものを私たちは大事に胸にしまっていていこう。そして国に帰って、それをきちんと整理し、記念品のようにいろいろな人たちに分けてあげよう。

1989年8月8日

3. 合宿セミナー参加日本青年の声

もっと多くの人ともっとゆっくり……

大野 勝弘
東京都・会社員

今までの私の韓国に対する考え方に新しく多くのことがつけ加えられた非常に有意義な3日間であった。

韓国には今年の5月1人で5日間ほど旅行をした経験があったが、若い人と長い時間心を通わせて話す機会がなかった。今回このように寝起きをともにし、食事をし、スポーツ交流をし、生活をともにしながら話げできたことは非常に自分の糧になった。また、一緒に酒をくみかわしたときのお互いの笑顔は、異なる国の人という感じがまったくなく、今までに味わったことのない喜びであった。

今回の合宿のプログラムの中にグループディスカッションがあったが、その中での話で最も印象に残ったことは、尹大植さんのことだ。

彼は第2次大戦中父親が日本に徴兵され、その後現在も行方不明となっている。そこで、今までずっと日本を憎み、どうやったら日本に仕返しができるかと考えていた。そのために日本についての本も多く読み、情報をたくさん集め、勉強してきたそうだ。しかし、今回日本に滞在し、日本人と直接交流し、悪い考え方より、より友好を深め交流していききたいという考えに変わってきたということだ。

これは、日本全体にとっても、私個人にとってもうれしいことである。日韓の間に歴史上非常に暗い過去があり、両国民は忘れることはできないが、それにとらわれ、友好を進められないのはと

ても残念なことである。戦争中の事実を消すことも忘れることもできないし、日本人が謝ってもどうにもならないことである。1人でも多くの韓国の人と直接話す機会を設け、“閉ざされた社会”同士で感情的なわだかまりを持ち続けることがないよう、このような機会に日韓両国の若者がぜひ多く参加していくべきだろう。

また、韓国の若者の姿を通して日本の若者のあり方にも考えさせられることがあった。彼らは非常にオープンマインドで、素直で真剣であった。日本人はそういったことを恥ずかしがったり、さめていたりすることが多いと思う。われわれは経済的には大成功し、近代化し、豊かになったが、同時に人の持つ豊かな心情や人と人との心の通い合いを忘れてしまったのだと感じた。日本に追いつけ追い越せという気運が韓国にあるようだが、日本と同じような「心」を犠牲にした経済発展はしないでほしいと思う。

これからももっと多くの人とゆっくりと話をしていきたいと思う。

国際交流は人間交流

風巻 猛
東京都・会社員

この合宿に参加する前、私にとってその合宿の意味合いは単なる国際交流というあまりにも抽象的なものでしかなかった。そして、参加して感じたことは、国際交流とはいっても、それは人間交流、つまり私たちの身の回りにいる人たちとのつき合いの延長ではないか、ということだ。

私が一緒にグループ討論をした韓国青年は4H

クラブの農業青年たち5名であった。私のような会社員とまったく異なる環境、そして仕事をしているのだが、話をしているうちに考え方も非常に似ていて、そして、なんとといっても彼らが私たち日本人に対して心を開き、私たちから何かを学び取り、自分自身も成長しようという気構えが強く感じられた。そのような彼らの姿勢に啓発されたためか、彼らとは本音で話し、私自身も彼らと一緒に成長したいと思いつつ討論し、素晴らしい交際ができたと思っている。

一緒に歌い、踊り、酒を飲み、言葉は不自由でも語り合える。とても勉強になり、しかも、楽しく過ごしたこの2泊3日は、忘れ難い経験になった。

ところで、私は討論の初めに1つ素晴らしい話を聞かされた。

ある農村青年は来日前は家庭の歴史的な事情(あの不幸な日韓併合)で反日運動の先頭に立っていた。しかし日本へ来て、いろいろな日本人と接して考え方が変わり、今までの自分の気持ちへの反省(?)の意味で献血をしたというのである。

このような経験は私たち日本人にもあてはまると思う。実際に接してみなければ分からない。そして心を開いてみなければ理解できない。日本人にとってはこのようなことをすることは苦手かも知れないが、少なくとも私は、これからはそのように人と接したいし、そうしなければいけないと思っている。

4Hクラブの人たちの討論は本当に自分にとって真の人間交流ができた場だと思う。

いのだろうということです。お互いに知りたいたことがたくさんありすぎて、時間制限がなかったら延々とディスカッションは続いたのではないでしょう。その限られた時間の中でも私はたくさんものを得ることができました。

韓国の方々の積極性、情熱、明るさ、私の想像よりもはるかに陽気でした。言葉に関しても完全に分かり合うことはできませんが、お互いの気持ちは通じたと確信しています。ノートには筆談の文字がたくさん書いてあります。そして、韓国の方の日本語を覚えようとする姿勢、努力には驚かされました。ここで私は、自分がアメリカでホームステイをしたときのことを思い出したのですが、“学ぼう”とする意欲が薄かったようです。どうしても遠慮してしまって、話すことが少なかったように思います。もし次にこのようなチャンスが私にやってきたら、以前よりも積極的になれるような気がします。

グループ31名の中には私の友人、知人にそっくりな人もいるし、日本と韓国はほとんど同じです。しかし、いくつかは違う点もありました。たとえば全般的な性格や、政治・経済への関心の度合い、会社の制度など……。

これからはなんのためにこの合宿セミナーを行ったかということをお頭において、国際交流の発展に努めなければなりません。またそれは、外国の人々、文化に数多く触れることによって、改めて自分の国「日本」を認識することにつながると思います。

素晴らしい瞳の輝きに見たもの

田中 美知子
宮城県・会社員

韓国という国にまったくといってよいほど関心がなく、この合宿セミナーを重荷にさえ感じていた私が、不思議なことに今は「参加して本当に良

互いの気持ちが通じ合った!

鈴木 眞由美
神奈川県・会社員

また1つかけがえのない財産を手に入れました。合宿に参加して感じたことは、なんて時間が短



日韓青年の歌声が響く

かった」という満足感でいっぱいである。

研修に参加するにあたり、「韓国の素顔」という1冊の本をいただいた。その本を読んでいるうちに、私の心の中にはある種の恐怖感が生まれた。現在でもなお、韓国青年の心の中には根強い反日感情が残っているという。生活、食文化もあまりにも違いすぎる。いったい何を接点に彼らと接すればよいのか、不安でいっぱいであった。

仙台を出発してから約5時間、研修センターに到着したとき、ある韓国青年が「こんにちは。初めまして。どうぞよろしく」と私に声をかけてくれた。「こちらこそ、どうぞよろしく」。私はこの瞬間、韓国青年の瞳の中に素晴らしい輝きを見た。私も頑張ろう、と思ったのである。

韓国青年は実にエネルギッシュであり、真面目で勤勉である。何ごとにも真剣に取り組んでいる姿に私は感動したと同時に反省させられた。「いったい私はこんなに真剣にものごとに取り組んだ

ことがあったらどうか」。私も韓国青年のように輝いている人物になりたいと思った。

2泊3日の合宿生活で私は何人の友を得ることができただろう。韓国青年と接しているとき、自分は本当に素直な気持ちでいることができた。言葉の障害はあったものの、国境を乗り越えることができたのではないか。改めて自国日本を考え直し、韓国との歴史的できごとにも勉強しなければならぬとも思った。その上で再度彼らと会うことができたと思う。

日ごろ会社生活に閉じこもりがちな私も、日本の中の国境（仙台と東京）を乗り越えることができたのも大きな収穫であった。

今、私の頭の中に韓国人、日本人という観念はない。皆兄弟である。素晴らしい“友情の種”を持って仙台に帰ることができる。これから大切に育てていこうと思っている。

素晴らしい機会を与えてくださった方々に感謝

致します。ありがとうございました。

果たしたい“かけ橋”の役割

伊海 政尚
東京都・学生

「あつという間」という言葉はこのセミナーのためにある、といってもよいと感じた。やはり、韓国も日本も何も変わるところはなく、同じアジア人、同じアジアの血が流れていることを実感した。

セミナー当日、ロビーで私は人見知りをしてしまい、4日間大丈夫かなという不安がよぎった。しかし、誠意さえあれば交流は可能であることを思い知った。本当に貴重な体験ができた。今、頭の中に鮮明に韓国学生の顔が、いや友達の顔が浮かんでくる。そして、われわれが両国のかけ橋としての役割を果たす必要があるということを確認できた。

これからも自分は積極的にいきたい。たとえ傷ついても、自分の素直な気持ちに忠実でありたい。誰もが自分の主張ができる雰囲気をつくることから真の交流が始まると思う。その点からも、よい雰囲気づくりに2月から努力してくれたセミナースタッフに感謝します。カムサハムニダ！

合宿セミナーを終えて

後藤 秋津
東京都・学生

初めて韓国の参加者に会ったとき、いったいこれで話ができるのかと不安になった。それほどに、お互いの英語がまずいものだった。

そしてまた、初対面の日にいきなり、「日本が韓国を植民地としたことを知っているか」と聞かれた。このときほど、両国の歴史の重みを痛感したことはない。やはりまだ、韓国の人にとっては、忘れられないこと、忘れてはいけないことなのだ。

それほど大きな障害があり、さらには言葉の壁があり、いったい4日間をどう過ごそうかと、気が重くなった。

しかし、セミナーが始まってみると、そのような心配は、次第に薄らいでいった。確かに言葉の壁は、最後まで大きくたちはだかつてはいたけれど、最初に感じたような恐ろしさは、なくなった。

不幸な過去は消すことのできないものではあるが、乗り越えていかなければならないものでもある。そして、それを果たすのはわれわれであろう。彼らと一緒に時間を持たたことは将来への自信となった。過ちは過ちとして認め、両国のよりよい関係のために、この4日間で得たものを役立てたい。

私たちが韓国から学ぶべきことはたくさんある。今回のセミナーで一番感じたのはこのことだった。現在の日本社会を考えると、彼らの手前、とても恥ずかしくなる。一番近い国同士、お互いの将来のため、切磋琢磨していけることを望んでいる。

日韓双方でつくり上げたセミナー

佐々木 容子
東京都・学生

私が「日本・韓国学生合宿セミナー」のリーダーを志したとき、頭をよぎったことは私たちの歴史の重みであった。それと同時に私にとって“近くて遠い国”韓国のことを知りたいという強い気持ちが生まれた。

不安と期待の中でつくり始めたセミナーの中で、不安の度合いのほうが強かった。韓国のこと、特に日帝時代のことを本やビデオから学んでいくと、韓国の学生がどのくらい私たちに心を開いてくれるか心配であった。

彼らと初めて会った日、そんな思いは吹き飛んだ。言葉は通じにくかったが、笑顔とジェスチャーで、うなずき合える回数が増えていった。「佐々木さんは目が大きいね。僕の目はボタン穴

と同じくらい」。心から笑い合った。こんな新鮮な笑いは久しぶりだった。

セミナーの中でも彼らはフレンドリーですべてのプログラムに積極的に参加してくれた。日本が主催のセミナーでは、どうしても相手国の意見を取り入れにくいセミナーづくりになってしまう。しかし今回は、韓国側から前もって得たテーマを話し合う時間を取ってみた。また、韓国側の学生から、自由時間を利用してカンガンスーレを一緒に踊りたいなどの提案が出た。細かいことだが、机を運ぶときも、仕切りを運ぶときも、すぐに協力してくれた。こういった意味から、本当に日本と韓国でつくることのできたセミナーだったと思う。

終戦記念日が近づき、母は新聞を見ながら「また戦争関係のテレビをやるの」と言っていた。確かに8月は、こういった番組が増える。日本は昭和から平成になった。時の流れがさまざまなものを変えていく。しかし私たちは戦争のことを子孫に語り継いでいかなければならない。それと同時に、21世紀を迎えるにあたって、不幸な歴史のある2国の若者が1人の人間として人間同士の触れ合いをすることが何よりも大切になると思う。このセミナーではこのことを強く実感することができた。

合宿セミナーを終えて

中島 輝行
東京都・学生

日本と韓国——地理的に最も近く位置しているにもかかわらず、まだまだお互い十分理解し合っていない。そんな矛盾を小規模ながら見事に返上したセミナーだったのではないか。

最初は言葉の問題が心配だった。つまり、日本人は韓国語を話せないし、韓国人も日本語を話せない。おまけに英語も日韓ともに不十分。こんな

悪条件の中で友情など生まれるのだろうか……。

しかし要らぬ心配だということがじきに分かった。お互いの気持ちさえ通じ合えば言葉なんて……などとよく聞か、僕はそんなのうそだと思っていた。いや、今でもそれが100%真実だとは思っていない。しかし、このセミナーは言葉なしでもここまでできるんだ、ということに僕に教えてくれた。ボディランゲージ、歌、笑顔、言葉以外にもコミュニケーションの方法はいくらでもある。細かいことを話すことはできなかったが、少なくとも「近くて遠い国」韓国という日本人の中での意識は完全に消えたといっているのではないか。

しかし、これで満足してはいけないと思う。この認識を30人ではなく、1億2千万人の人たちに植えつけなければ……。気の遠くなるような話だが、1つだけいえることは、30という数を通らずして1億2千万という数にたどりつくことはできないのだ。われわれのできることはこの素晴らしい経験をなるべく多くの人たちに伝えていくことではないだろうか。

Hand in Handの感激をいつまでも

山田 淑子
東京都・学生

“国際交流”を考えると、まず頭に浮かんで



レクリエーション



語らい

くるのは、言葉・文化・宗教などの違いによる厚い障壁であり、国家間で行われるものという抽象的なイメージでした。しかし今回のセミナーでは、初めに障壁があり、それを乗り越えることが国際交流なのではなく、真に、伝えたい、分かり合いたいという心の触れ合いが国際交流であり、それは個人レベルでの話し合いにこそ生まれるものと強く感じさせられました。

韓国の学生たちと話すうちに気づいたことは、個人の意見というものは、その国の政治・経済状態にいかにか影響を受けているかということ、また、他国の方と話すとき、自分は日本の代表として責任ある発言をしなければならないということでした。

このセミナーがきっかけとなり、日本人としての自覚、自国に対する責任を強く感じるようになりました。これから、真の意味での国際交流を続けていくためにも、自分自身の充実を図りたいと思います。

今回のセミナーは、韓国の方との交流はもちろん、日本人同士の交流の場としても最高の機会でした。このような機会を与えてくださった方々にお礼を言いたい気持ちで本当にいっぱいです。最後の夜、「交流の夕べ」で手を取り合って歌った「Hand in Hand」。あのときつないだ手を一生放さないようにするため、これから努力を続けていきたいと思っています。

カッチ・カアッチ

蒲生 実
東京都・教員

今夏、国際交流サービス協会のお招きで、神奈川県藤野で開かれた「21世紀のための友情計画」の合宿セミナーに参加させていただいた。ここ数年間に韓国には十数回訪れたが、公的な交流の場に参加したことがなかったので、このお招きは誠に光榮の至りだった。

2泊3日の合宿だったが、韓国について忘れられない思い出の1つになった。

韓国の先生と寝食をともにし、数々のスケジュールをこなしたが、小グループに分かれて、日本と韓国の抱える家庭教育の問題について、忌憚ない話し合いや情報の交換ができたことは本当に有意義なものだった。が、両国間には、家庭教育の問題1つ取り上げても、共通する点もあるが、理解をするのにかなりの時間がかかる問題も多いことにも気がついた。

日本の4人の仲間で韓国を旅行しながら、隣の国を理解し親睦を深める目的で「カッチ・カアッチ」という会をつくり、11月に「韓国四人展」を終えたばかりである。会の名は、「カッチ」（ともに）・「カアッチ」（韓国の国鳥）、つまり「韓国とともに」という意味である。

夜、合宿で韓国の先生とともに酒を酌み交わし、肩を組んで「豆満江」を歌ったときは不覚にも涙が出そうになった。今、合宿所の前に咲いていたキキョウの花と韓国の安東で見たレンギョウの花が、なぜか頭から離れない。

その後、韓国の先生と手紙の交換を続けているが、清州の李さんは、今、大阪におられる。韓国の皆さん、協会の清水さん、橋本さん、アンニョンヒー・ケーシプシオ!

4. ホストファミリーの思い出

民泊で体験した国際交流

大喜多 章親
香川県・教員

私が受け入れたのは李さん。28歳の物理学者の卵。もう1人は崔さん、25歳の将来は建築家かインテリアデザイナーになりたいというスポーツマン。2人ともとても礼儀正しい好青年でした。

2人は夜遅く私の家に到着しました。私がその夜一番驚いたのは、私の両親の対応でした。父は百科事典から世界地図を取り出すや、2人にどこに住んでいるのか聞き始めたり、母は、夜もとうに更けているのにフルーツやビール、夜食まで出す始末。本当に人のいい家庭に生まれたものだと思っけにとられました。私の家族が心よく2人を歓迎してくれたことが何よりうれしいことでした。

さて民泊で一番苦労するのは言葉の問題でしょう。私は韓国語を聞くのは受験のとき、深夜のラジオ放送以来で、彼らが話す言葉はまったく分かりません。李さんと崔さんは日常会話程度の英語ができたので、会話はおっぱら英語で行われました。しかし、私の下手な英語で2人を戸惑わせることも何度かありました。

3日間にいろいろな韓国語を教わりました。中でも家族のことをカジョク、公園のことをコウワンなどと日本語によく似た発音をするのには驚きました。

民泊も終盤に近づいた夜、私たちは家族全員で散歩することにしました。夜の小川にホテルを見つけ、浴衣姿の2人は団扇を手に、飛びかうホテルを取るのに熱中していました。そして、家の前

でみんなで花火をして、3日間の民泊の幕を閉じたのです。

旅立ちの前、2人は私と家族に本当にありがとうございましたとお礼を言いました。私は2人に、これからはあなたたちの国にもいろいろな国々から学生や青年たちがやってくると思いますが、私たちへの感謝の気持ちをそれらの人々に優しく示すことで表してくださいと言うと、李さんも崔さんも「もちろんです」と力強い返事が返ってきました。そして香川県をあとにしたのです。

交流とは、いろいろな形でできるんだということがよく分かった3日間でした。私たちは外国へいなくても、この短い3日間で生活体験の異なる李さんと崔さんと過ごした間に、本当に多くのことを学んだと思います。

そして今、ラジオを聞きながら、歓迎レセプション等でみんなで歌った曲が隣の国の放送局から流れてくるのを懐かしく思っているのです。

1989年の夏休み

長尾 史子
香川県・教員

この夏、妹が2人できた。張善美（チャン・ソンミ）と金妍珠（キム・ヨンジュ）。2人とも20歳の学生さん。

夜、私の部屋でふとんをしき、いろいろと話した。家族の写真を見せあい、「ソンミはお姉さんそっくり」「おばあさんは元気そう」と言いあう。ソンミがボーイフレンドの写真を出してきてこっそり名前を教えてくれる。ヨンジュが「な〜に」と聞きにくる。「言っちゃダメ」……本当に普通の

友達同士のような、楽しい会話が遅くまで続いた。眠い目をこすりながらも、誰もやめようとは言い出さなかった。まさに寝食を共にした4日間。

3日目は海水浴。ヨンジュは水泳が好きで1人でどんどん泳いでいる。ソンミは浮き輪でのんびりと……。天気もよく2人とも喜んでくれた。韓国でもたまに海へ行くそうだ。

両親・弟も楽しみにし、いつもは滅多にそろわぬ4人が民泊の間はずっとそろっていた。

以下は私よりのっていた母の感想です。

今日、ソウルからエアメールが届いた。

I was proud of my home stay to my family and my friend. I think I and Seonmi are lucky girls. And I thank you and your family again.....

手紙を読みつつ、私もついにっこり。

彼女たちのホームステイがきまってから、私たち家族は、とてもうきうきしていた。私は、チャンスがあるごとに、「私の家に外国のお客さんが来るのよ」と言ってまわった。「また1つ、幸せが舞い込んで来るんだ」という気持ちでいっぱいだった。期待にたがわず、かわいくて、謙虚で、素直な学生さんたちだった。料理下手の私も、久しぶりのおスシづくりに腕をふるった。また、彼女たち大好物の、プルコギを、みんなでつくって食べたときのおいしかったこと。みんな童心にかえて、花火も楽しんだ。

教室でしか英語を使わなかった主人の英語力が、大いに頼りにされた日々でもあった。

お迎えから、見送りまで、1週間はお客様デー。

彼女たちの滞在は、私たち家族の結びつきを、より一層強めてくれた。彼女たちはまさに、幸せのかわいい鳥たちであった。

楽しい思い出と夢をありがとう

林 秀昭
香川県・教員

親愛なる韓さん、洪さん、お元気ですか。お別れしてはや1カ月が経ちますが、私たちはあなた方と出会い、共に過ごした日々の楽しい思い出をお2人の笑顔とともにたぐりよせては、海の向こうのまだ見ぬ「大韓民国」へ思いをはせています。

あなた方と過ごした日々は、私たち家族にとって人生のうちの何千分の1のわずかな日々でしたが、大きな意味を持つ日々でした。「近くて遠い国」というイメージは、消すことのできない過去の重さが生む躊躇^{ちゆちゆ}からだったのでしょうか。「ホームステイをひきうけてくれますか」「はい」この短い会話から始まった私たちの出会いが、すべてを払拭してくれました。私たちを明日へ導いてくれたのです。

礼儀正しく、やさしさにあふれるお2人の人柄に接し、あなた方のご家族と祖国の素晴らしさを痛感しました。日本人が失いかけている人間としての大切な「情」があふれる振る舞いがまぶしく、頭が下がる思いでした。

韓国語はまったくできず、英語も片言。手帳を片手にジェスチャー交え悪戦苦闘する私たちを真剣に見つめ、一生懸命理解するよう努めてくださったことに感謝しています。そして何より、おてんばで甘えん坊、腕白盛りの美樹と義樹を可愛がってくださったことをうれしく思います。おんぶにだっこ、肩車。暑い上にハードスケジュールで疲れていただろうにいやな顔一つせずひきうけてくださいましたね。子供は正直です。本物のやさしさを見抜くことができます。やさしいお兄さんのことが忘れられないのか、「ハンさん、ホンさん」と今も話題によくのほります。

今の私たち家族の夢は、「近くて近い（親密な）国」を実感すべく、今度は私たちの方からあ

なた方の祖国へ足を運ぶことです。そして大韓民国を肌で感じ理解したいのです。既にパンフレットは用意しました。そのときは義樹もお兄ちゃんです。次代の担い手の子供たちとともに、またお2人にお目にかかれる日を楽しみにしています。

~~~~~  
 今度会うときは韓国語で

前川 昌司  
 香川県・公務員

韓国は日本人にとって「近くて遠い国」と言われている。事実、今回の訪日団の彼らと知り合うまでは、戦時中の強制連行などの過去の不幸な事件、韓国語の発音やハングル文字のもの珍しさ、民族衣装のチマチョゴリの独特なデザインと色調等、地理的には海峡1つしか離れていない隣国にもかかわらず、私の韓国観は不思議な国という印象が強かった。

しかし、歓迎のレセプションで私に笑顔で握手を求めてきた陳さん・朴さんと2日間を過ごして感じたのは、彼らと私は人種的に似ている外見以上に、なんら違うところのない同じ人間なのだ、ということだった。

彼らは儒教思想の強い国の人間らしく、律儀で礼節を重んじ、また、私が忘れてしまっていた素朴さ、純朴さというものを持っているように思えた。私の家は外国人の受け入れは初めてだったので、失礼なことや不自由なことがないように気をつかったが、彼らはそういうときにいつでも「ダイチョウブデス」と笑ってくれた。

彼らは私の家族にも非常に好意的で、母国で勉強してきた慣れない日本語を使ってコミュニケーションをとろうと努力(?)していたし、私の弟と陳さんが日韓両国のお国自慢を始めたのは非常に愉快だった。帰国後朴さんから届いたお礼の手紙は、外国人には非常に困難であろうひらがなと漢字で書かれていたのには感激したが、それととも



ホストファミリーと一緒に

に自分が他の国のことについて、いかに知らずとしていなかったかを痛感したのである。

最近韓国に進出した日本企業の動向が国際問題にまで発展しているが、私は今回の交流で、国家の優劣という基準からの歪んだ情報を興味本意で聞くのではなく、1人と1人というところで、相互理解は必ずできるものと思った。海水浴に行った浜辺で、昨年海外派遣研修でマレーシアに行ったときに教えてもらったセパラタクロという球技を彼らと行った。結果は私たちの惨敗だったが、本当の国際交流というのはこういうものではないのかと思った。

私は今度韓国で彼らに会えるのを楽しみにしている。そのときにはぜひ韓国語だけで彼らと会話したいものである。

~~~~~  
 出 会 い

山下 智代
 香川県

1つの出会いがこれほどまでも深く心に残り、大きく広がっていくとは夢にも思わなかった。

1989年夏、「韓国から大学生が来るんだけれど、



お別れのJRホームで

ホームステイお願いできない？」という話に、楽しそうだなあという軽い気持ちで両親にも相談せずに、すぐにOKしてしまった私だった。そのことを父に話すと、私同様、二つ返事でひき受けてくれた。

しかし、母は渋った。母の言い分はたくさんあった。部屋がない、言葉が通じない、食事が困る、etc. 揚げ句の果てには相談せずにOKした私が責められた。ホームステイの日が近づくにつれて、母の顔には困惑と不安が増してくるのがわかる。それにひきかえ、私はといえば、仕事にかこつけて部屋の掃除さえしようとしなかった。

母と私の間がどことなくぎくしゃくしているうちに、大学生一行は来高し、歓迎レセプションの日を迎えた。この日も行かないという母を無理に連れて行った。私たちはドキドキしながら対面を待っていた。わが家にはチマチョゴリを着たととてもかわいらしい聖玉さん、云喜さんが来ることに

なった。片言の英語での会話、韓国の歌、そして、何よりも彼女たちの笑顔、気遣いが私たちの不安を取り除いてくれた。この日から母の表情が一転した。それから2日後、2人が家に来るのを楽しみに待っているようだった。

金曜日の夜から月曜日の朝までの3日間、母は本当に楽しそうだった。たどたどしい英語で「私には4人の娘がいる。云喜さん、聖玉さん、智代(私)美枝(妹)だ」と彼女たちに話す母の顔は、2人の母になりきっているように見えた。瀬戸大橋クルージングの船上でも1人の男性が日本語で歌ってくれた「酒よ」を聞いているときの母は少女のように屈託がなかった。このような母の一面を初めて見たような気がした。

母は、3日間食事の準備をしてくれ、それを聖玉さん、云喜さんは「おいしい、おいしい」と食べてくれた。また、父や母がはしをつけるまで、彼女たちはどんなに勧めても食べようとはしなかった。

さよならパーティーの日、母は彼女たちとの別れを心から惜しみ、涙にむせていた。歓迎レセプションの日からちょうど1週間経っていた。この1週間、これほどまでに母を感激させたのは、彼女たちの朗らかさ、素直さ、優しさだった。言葉では言いつくせないほど、母と彼女たちの心はつながっていた。ふだんから何も言わない父も温かく見守ってくれていた。

母は1989年のわが家のトップニュースにホームステイをあげている。そして、顔を輝かせ、夏にはソウルへ行くと話している。聖玉さん、云喜さん、ありがとう。そして、これからもよろしく。

平成元年度 実績資料

1. 韓国窓口機関（現地プログラム実施機関）

大韓民国文教部社会国際教育局社会教育振興課

2. 現地プログラム実施日程

		プログラム内容		実施場所
7/3	月		開講式 本事業説明 JICAブリーフィング グループ別プログラム説明 グループ別対話	ソウル
4	火	講義「韓国の歴史と文化」 生活日本語学習	韓国歌謡練習 日本歌謡練習 講義「韓国と 日本との関係」 日本訪問時留意事項	〃
5	水	講義「韓国と日本の文化交流」 生活日本語学習	韓国歌謡練習 日本歌謡練習 講義「韓日経 済発展と経済協力方向」 日本映画上映「日 本の家族」「日本の経済」 歓送会 グループ別討議	〃
6	木	生活日本語学習 派遣者基本教育		〃

3. 国内実施日程

第4陣 勤労青年グループ

		プログラム内容		実施場所
7/11	火	来日	生活ガイダンス	東京
12	水	本計画のブリーフィング 開講式	昼食懇談会 日本語学習 団体プログラム紹介	〃
13	木	講義「日本の産業と経済」	日本語学習 日本語サロン	〃
14	金	講義「日本の近・現代史」	日本映画鑑賞 武道鑑賞および交歓会	〃
15	土	合宿セミナー打ち合わせ	体験的日本語学習	〃
16	日		<自主研修>	〃
17	月	横浜博見学	日本語サロン	〃
18	火	講義「日本と韓国」	講義「日本の社会と文化」	〃
19	水	浅草見学	皇居前広場散策 労働省訪問	〃
20	木	(都市勤労青年)京王帝都若葉台工場見学・交流(農村青年)埼玉県立農業大学校訪問 洋蘭園・農産物供給センター・農協ライスセンター視察		〃
21	金	合宿セミナーオリエンテーション	両国青年意見発表 グループ討論 スポーツ交流	神奈川
22	土	グループ討論	グループ討論 交流パーティー	〃
23	日	グループ討論のまとめ	閉会式 東京へ移動	東京
24	月		<自主研修>	〃
25	火	仙台へ移動	地方プログラムオリエンテーション	宮城
26	水	県庁訪問 市役所訪問 河北新報社見学 東北大学電気通信研究所見学 レセプション		〃
27	木	((都市勤労青年)東北リコー見学(農村青年)古川農業試験場見学) 蒲鉾工場見学		〃
28	金	ホームステイ引き渡し	<ホームステイ>	〃
29	土		<ホームステイ>	〃
30	日		<ホームステイ>	〃
31	月	日本青年との交流(グループ討論・生け花・折紙実習・講義・交流の夕べ)		〃
8/1	火	キリンビール仙台工場見学	宮城蔵王こけし館見学 評価会	〃
2	水		<自主研修> さよならパーティー	〃
3	木	広島へ移動	韓国人慰霊碑参拝・平和記念公園・原爆資料館見学	広島
4	金	徳島へ移動	阿波十郎兵衛屋敷・鳴戸公園見学 阿波踊り体験	徳島
5	土	京都へ移動	清水寺・古代友禅苑見学 ギオンコーナー	京都
6	日	奈良見学(国立博物館・東大寺・春日大社・法隆寺)		〃
7	月	自主研修	東京へ移動	東京
8	火		<帰国準備>	〃
9	水	評価会 帰国についての説明・諸手続き	歓送会	〃
10	木	帰国		

第4陣 学生グループ

		プログラム内容	実施場所
7/11	火	来日 生活ガイダンス	東京
12	水	本計画のフリーフィンギング 開講式 昼食懇談会 日本語学習 団体プログラム紹介	〃
13	木	講義「日本の産業と経済」 日本語学習 日本語サロン	〃
14	金	講義「日本の近・現代史」 日本映画鑑賞 武道鑑賞および交歓会	〃
15	土	合宿セミナー打ち合わせ 体験的日本語学習	〃
16	日	<自主研修>	〃
17	月	横浜博見学 日本語サロン	〃
18	火	講義「日本と韓国」 講義「日本の社会と文化」	〃
19	水	オリエンテーション 開講式 三グループ分散大学訪問	〃
20	木	東京証券取引所・深川江戸資料館・相撲博物館見学 自主研修	〃
21	金	山中湖へ移動 合宿セミナー オリエンテーション 分科会 全体討論	山梨
22	土	分科会 レクリエーション 分科会 自由討論	〃
23	日	分科会 分科会 交流の夕べ レクリエーション	〃
24	月	富士山五合目散策 東京へ移動	東京
25	火	高松へ移動 地方プログラムオリエンテーション 県勢概要	香川
26	水	瀬戸大橋記念公園見学 四国電力坂出發電所見学 レセプション	〃
27	木	香川第一中学校訪問 隆祥産業(株)見学	〃
28	金	森繁インテリア家具見学 少林寺拳法道場見学 ホームステイ引き渡し	〃
29	土	瀬戸内海クルージング 公測公園にて記念植樹	〃
30	日	<ホームステイ>	〃
31	月	五色台少年自然の家訪問 瀬戸内海歴史民俗資料館見学 香川大学農学部訪問	〃
8/1	火	特別養護老人ホーム訪問 知事表敬 県勢概要説明 スポーツ交流	〃
2	水	<自主研修> さよならパーティー	〃
3	木	栗林公園見学 広島へ移動 韓国人慰霊碑参拝 平和記念公園・原爆資料館見学	広島
4	金	宮島見学 京都へ移動	京都
5	土	東大寺見学 法隆寺見学	〃
6	日	金閣寺・清水寺見学 東映太秦映画村見学	〃
7	月	東京へ移動	東京
8	火	<帰国準備>	〃
9	水	評価会 帰国についての説明・諸手続き 歓送会	〃
10	木	帰国	

第4陣 教員グループ

		プログラム内容			実施場所
7/11	火	来日	生活ガイダンス		東京
12	水	本計画のブリーフィング 開講式	昼食懇談会	日本語学習 団体プログラム紹介	"
13	木	講義「日本の産業と経済」	日本語学習	日本語サロン	"
14	金	講義「日本の近・現代史」	日本映画鑑賞	武道鑑賞および交歓会	"
15	土	合宿セミナー打ち合わせ	体験的日本語学習		"
16	日		<自主研修>		"
17	月	横浜博覧学		日本語サロン	"
18	火	講義「日本と韓国」	講義「日本の社会と文化」		"
19	水	札幌へ移動	札幌東高等学校訪問		北海道
20	木	平和幼稚園訪問 札幌山の手南小学校訪問	大倉山シャンツェ見学		"
21	金	市長表敬 道知事表敬訪問	教育庁表敬訪問 教育事情説明	レセプション	"
22	土	真駒内芸術の森見学	北海道開拓記念館・札幌ビール工場博物館見学		"
23	日		<自主研修>		"
24	月	道立特殊教育センター訪問	日高へ移動	地元青年との交流会	"
25	火	日高軽種馬共同イクセイセンター見学	ホストファミリーとの昼食対面式		"
26	水		<ホームステイ>		"
27	木		<ホームステイ>	さよならパーティー	"
28	金	東京へ移動			東京
29	土	自主研修	相模湖へ移動 合宿セミナー	夕食会 交流の夕べ	神奈川
30	日	基調講演 韓国側発表	分科会 報告会	夕食会 交流の夕べ	"
31	月	スポーツ大会	東京へ移動		東京
8/1	火		<自主研修>		"
2	水	茶道体験	NHK放送センター見学		"
3	木	広島へ移動	韓国人慰霊碑参拝・平和記念公園・原爆資料館見学		広島
4	金	宮島見学(厳島神社・弥山ロープウェイ)	京都へ移動		京都
5	土	古代友禅苑見学	金閣寺・龍安寺・西陣織会館見学	ギオンコーナー	"
6	日	法隆寺見学	東大寺・国立奈良博物館見学		"
7	月	二条城見学	東京へ移動		東京
8	火		<帰国準備>		"
9	水	評価会 帰国についての説明・諸手続き		歓送会	"
10	木	帰国			

第4陣 青年指導者グループ

		プログラム内容	実施場所
7/11	火	来日 生活ガイダンス	東京
12	水	本計画のブリーフィング 開講式 昼食懇談会 日本語学習 団体プログラム紹介	〃
13	木	講義「日本の産業と経済」 日本語学習 日本語サロン	〃
14	金	講義「日本の近・現代史」 日本映画鑑賞 武道鑑賞および交歓会	〃
15	土	合宿セミナー打ち合わせ 体験的日本語学習	〃
16	日	<自主研修>	〃
17	月	横浜博見学 日本語サロン	〃
18	火	講義「日本と韓国」 講義「日本の社会と文化」	〃
19	水	講義「青少年問題の現状と健全育成」 昼食会 総務庁表敬・講義 芸能鑑賞	〃
20	木	文部省訪問・講義「生涯学習の施策について」 皇居周辺散策 茶道体験 野球観戦	〃
21	金	山梨へ移動 富士五合目散策・風穴・鳴沢水穴見学 合宿セミナー 交流の夕べ	山梨
22	土	グループ討論 スポーツ交流 キャンプファイヤー	〃
23	日	東京へ移動 昼食会 自主研修	東京
24	月	<自主研修> 松江へ移動	車中泊
25	火	地方プログラムオリエンテーション 市内見学（松江城・武家屋敷等）	島根
26	水	選択見学（原子力発電所または水耕栽培・授産センター） 宍道湖遊覧 夕食会	〃
27	木	副知事表敬 県勢概要 講義「青少年育成問題」 青年指導者との懇談会 歓迎会	〃
28	金	吉田村視察（村役場表敬・鉄の歴史博物館見学・山内生活伝承館見学） 懇談会 芝原ぶどう園見学 湯村温泉	〃
29	土	国際フォーラム（開会式・講義「両国の言語・歴史と将来展望」・意見交換会・交流会）	〃
30	日	島根ワイナリー見学 出雲大社見学 ホームステイ（三地域に分散）	〃
31	月	（出雲市）市長表敬・施設見学・歓迎会（大田市）農業地域視察・茶道体験・市長表敬 （仁摩町）漁協施設視察・町長表敬（大田・仁摩合同）石見銀山・芝尾瓦工場・歓迎会	〃
8/1	火	<ホームステイ>	〃
2	水	<ホームステイ> 夕食会	〃
3	木	広島へ移動 韓国人慰霊碑参拝・平和記念公園・原爆資料館見学	広島
4	金	京都へ移動 金閣寺・古代友禅苑・清水寺見学	京都
5	土	奈良見学（東大寺・春日大社・法隆寺）	〃
6	日	<自主研修>	〃
7	月	東京へ移動	東京
8	火	<帰国準備>	〃
9	水	評論会 帰国についての説明・諸手続き 歓送会	〃
10	木	帰国	

4. 韓國青年名簿

* 氏 名

* 現 職

* 連絡先

* 電話：自宅(左), 職場(右)



박 병호(朴炳浩)
 総団長
 Park Byeong Ho
 Head Supervisor
 Ministry of Education
 33-404 Hyun Dai Apt.
 Karak-Dong Sonpa-Gu
 Seoul Korea
 400-4433 737-3324



홍 대영(洪大榮)
 副団長
 Hong Dae Young
 University Education
 Student Affairs
 Ministry of Education
 Na-202 Sin Woo Villa
 1547-16 Seocho 3-Dong
 Secho-Ku Seoul Korea
 001-82-2- 001-82-2-
 584-4071 737-3774



홍 갑기(洪甲基)
 幹事
 Hong Kab Kee
 Educational Researcher
 Student Guidance
 Ministry of Education
 803-507 Civil Servant
 Apt. Kodokdong
 Kangdong-Gu
 Seoul Korea
 470-1144 720-3046



이 태익(李泰翊)
 幹事
 Lee Tae Ik
 Assistant Director
 Division of Wormens/
 Juvenile Labor
 Ministry of Labor
 68-12 Sadang-Dong
 Dongjag-Gu Seoul
 150-090 Korea
 (02) 536-9352 (02)503-9746

勤勞青年



윤 병성(尹炳成)
 班長
 Yoon Byung Sung
 Asst Manager
 Aerospace Division
 Korean Air
 Ja-303 Kai Apt. Nae-
 Dong Kimhae-City
 Gyung-Nam Korea
 (0525)33-9215 (051)98-1531
 (Ext. 2235, 5272)



한 애순(韓愛順)
 Han Ae Soon
 Employee
 Affairs Dept.
 Dae Duck Electronics
 Co. Ltd.
 943-13 Wonkok-Dong
 Ansan-City Kyunggi-Do
 Korea
 (0452) 33-2256
 (0345) 491-2791



전 선희(全仙姬)
 Jeon Seon Hui
 Farmer
 60 Dosin-Ri Shiseo-
 Myon Yeunchun-Gun
 Gyeonggi-Do Korea
 (486-830)
 (0355-34-8387)



강 인실(姜仁實)
Kang in Sil
Farmer
180 Dukdae-Ri Gunbuk-
Myon Haman-Gun
Gyeongnam-Do Korea
(638-820)
0552-82-5236



김 순화(金順和)
Kim Soon Whoa
Farmer
Wooyong-Ri Doonhae-Myo
Whoengsung-Gun
Kangwon-Do Korea
(225-830)
(0372)-42-1330



이 수경(李洙鏡)
Lee Soo Kyung
Dept. of Dyeing Processing
Jeilhabseom Co
705-21 Bung Deog
1-Dong Nam-Gu
Daegu-City Korea
(053) 626-2027
(053)82-1511-5
451-6



박 경애(朴敬愛)
Park Kyoung Ae
Administrative Staff
General Services Division
Ministry of Science &
Technology
1-1556 Pukahyun-Dong
Seodaemun-Ku Seoul
Korea
(02) 312-9814 (02) 503-7621



서 경옥(徐庚玉)
Suh Kyung Ok
Cosmetic Inspector
Division II Plcc Production
Dept. Anam Industrial
Co. Ltd.
50-3 Kyelim-3 Dong
Dong-Gu Kwangju-City
Korea
062-223-6528 (032)653-5101
(032) 662-3289 -3
3610



안 승덕(安承德)
An Sung Duk
Print
Printing
Korean Labor Welfare
Corporation
95-1-Dong Ansan-City
Kyunggi-Do Korea
(042)73-1043 (0345) 83-
5582



배 상돈(裵相敦)
Bae Sang Don
Administrative Staff
Dept. of Accounting &
Financing
Korea Institute of Technology
102 Ho Han But Billa Gal
Ma Dong
Seo-Gu Daejon Korea
(042)522-3407 (042)861-1234



홍 광선(洪光先)
Hong Kwang Sun
Farmer
482-3 Gijuk Dong Kwang
San-Gu Kwangju-City
Korea (506-505)
0623 941-3858



황 인수(黃仁秀)
Hwang In Soo
Assistant Chief
Advancement & Operation
Dept.
Korea Science Foundation
Mokdong Apt. 1418-202
Shinjeong-Dong
Yangcheon-Gu Seoul
Korea
645-4509 555-0838
32



현 재규(玄在圭)
Hyoun Jae Kew
Teacher
Choung-Chung-Nam Do
The Board of Education
Gae-Hwa Elementary School
817-3 Dong-Dae-Dong
Dae-Chun City Choung
Chung Nam Do Kore
(355-140)
(0452)32-6440 (0452)33-
5141



김 동권(金東權)
Kim Dong Kyeun
Farmer
161 Gakkye-Ri Simchun-
Myon Yeongdog-Kun
Chongbuk-Do Korea
(370-850)
(0414)42-7183



김 명훈(金明勳)
Kim Myung Hoon
Farmer
840 Shinhyo-Dong
Seogyupo Cheju-Do
Korea (697-040)
(064) 67-0148



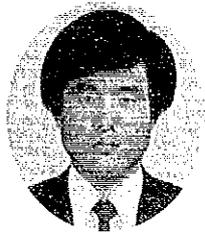
김 원희(金原會)
Kim Won Hoe
Automation Design
Faculty Dept.
Industrial Technology
Training Institute
Daewoo House Ga-Dong
101 513-17 Shinwol-Dong
Yang Chon-Ku Seoul
Korea
(02) 697-7120 (02)8601-686



이 철선(李哲仙)
Lee Chul Son
Administrative Staff
Dept. of Student Affairs
Korea Institute of
Technology
501-209 Jugong-Apt
Nae-Dong Seo-Gu Daejon
Korea
(042)45-5759 (042)861-1234



이 경희(李敬熙)
Lee Kyung Hii
Meteorologist
Climatic Division of Kwangju
Korea Meteorological
Service
7/4 29-16 Seo 2 Dong
Kwangju-City Korea
(062)66-1756 (062)672-7365



이 태호(李泰鎬)
Lee Tee Ho
The Personnel
The General Affairs Dept.
Korea Electric Power
Corporation
44-3 Kamsam-Dong
Dalsu-Gun Daegu Korea
954-3008 420-3316



이 용범(李鎔範)
Lee Yong Bun
Assistant Director
Dept. of Directing Dispute
Federation of Korea
Textile Workers Union
319-5 Naison 1 Dong
Eui-Wang-City
Kyoung-Gi-Do Korea
(0343)58-6318
(02) 337-3111-3



박 원배(朴元培)
Park Won Bae
Farmer
362-8 Chung Dang
Cheonam-City
Chungnam-Do Korea
330-370
(0417) 565-1836



심 성보(沈成輔)
Shim Sung Bo
Assistance Secretary
Bureau of General Affairs
Federation of Korean
Trade Unions
180-79 Bong Chun 11 Dong
Kwanak-Ku Seoul Korea
(02) 883-5988 (02) 780-6009
782-3884
-7



신 명훈(申明勲)
Shin Myung Hoon
Engineer
Engine Production Dept.
Daewoo Heavy Co. Ltd.
278-74 Hwasu-1 Dong
Dong-Ku Incheon-City
Korea
(032) 762-3367



심 언보(沈彦普)
Sim Eun Bo
Employee
2 Production Dept.
Co. Jong Geun Dang
306-14 Koang Myeong
Dong Koang Myeong
Kyunggi-Do Korea
613-1742 677-6815 605
3841



양 호열(梁鎬烈)
Yang Ho Yul
Technical Engineer
Dept. of Research &
Management
The National Science Museum
22/4 21-13 Gu-San Dong
Eun-Pyong-Gu Seoul
Korea (122-060)
02-386-9804 02-762-5205
5209



예 인수(芮仁洙)
Ye In Soo
Jigs & Fixtures Design
Faculty Dept.
Industrial Technology
Training Institute
Kugkyung Apt 307, 73-2
Kaeon-Dong, Nam-Ku
Pucheon-City
Kyungki-Do Korea
(032) 667-5083 (02) 841-054(4)
47,48



유 영록(柳漢錄)
Yoo Young Log
Farmer
285 Dukjung-Ri
Kochang-Eub Kochang-Gu
Chunbuk-Do Korea
(585-800)
(0677) 62-1246



윤 원식(尹元植)
Yoon Won Sik
Teacher
Kang-Won Do The Board
of Education
Oh-Mi Elementary School
236-4 3 Ban Oh Miri
Bang-San Myun Yang-Gu
Goon Kang-Won Do Korea
(255-830)
(0361) 3-6948
(0364) 481-5092



윤 대식(尹大植)
Youn Dae Sik
Farmer
806 Young Bok-Ri Chil
Yang-Myon Kangjin-Gun
Chungnam-Do Korea
001-82-0638-327810
062-33-0151



윤 영철(尹永喆)
Youn Young Cheol
427-1 Ineoi-Dong Kumi-
City Gyeong Buk Do
Korea
0546-462-7096
0546-52-2570

学生



유 철수(劉哲受)
班长
Yoo Chul Soo
Student
Dept. of Agriculture
Cheju National Univ.
1314-29 Hanlimri
Hanlimup Pukchejukun
Cheju-Do Korea (695-830)
001-82-64 001-82-64
96-4001 23-6141 (505)



홍 미선(洪美善)
Hong Mi Sun
Student
Computer Science
Kyonggi University
19-44 Oryudong Curogu
Seoul Korea
001-82-2
612-7129



황 운희(黄云喜)
Hwang Woon Hee
Student
Computer Science
Sogang University
445-15 Galhyun-Dong
Eunpyung-Gu
Seoul Korea
(02) 359-1957



장 선미(張善美)
Jang Sun Mi
Student
Mathematics
Sookmyung Womens Univ.
Seoknam-Dong 559-
Beonji Kyeongin Apt.
B-Dong 503-Ho Seo-Ku
Incheon Korea
(404-222)
(032)862-9896



강 윤정(姜允晶)
Kang Yun Jung
Student
Dept. of Food Science
& Nutrition
Hy-Osung Womens Univ.
164-19 Dachyum-1 Dong
Buk-Gu Daegu 702-041
Korea
(053)92-4542



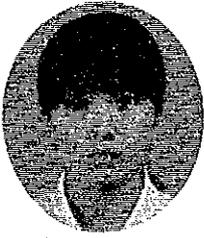
김 연주(金妍珠)
Kim Yeon Joo
Student
Computer Science
Hankuk University of
Foreign Studies
Hanyang Apt. 2-308
Songpadong Songpago
Seoul Korea
(02) 418-8277



권 성옥(權聖玉)
Kwon Seong Ok
Student
Home Economics
Sangmyung Womens Univ.
Hannam Apt 201 467-24
Anyang 6 Dong Anyang-
City Kyung-Gi Do Korea
0343-48-1723



이 은주(李恩柱)
Lee Eun Joo
Student
Dept. of Pharmacy
Major in Pharmacy
Kangweon National Univ.
30-2 Ungyo-Dong
Chunchon-City
Kang Weon Province
(0361) 3-4406



이 미숙(李美淑)
Lee Mi Suk
Student
Physic
Kyunsung University
Si Young Apt. 23-205
Geasong Dong Haeundae-
Gu Pusan Seoul Korea
(051) 624-9827
(051) 72-8534



오 현정(吳賢貞)
Oh Hyun Jung
Student
Biology
Sungshim Womens Univ.
96 Anam-Dong 2nd St.
Sung Book-Ku
Seoul Korea (136-072)
(02) 741-0914



박 지혜(朴志慧)
Park Ji Hye
Student
Home Economics
Duk Sung Womens Univ.
91-2 Samjungdong Song
Pa Gu Seoul Korea
(02) 414-2479



조 중배(趙中培)
Cho Joong Bae
Student
Dept. of Horticulture
Breeding
Mokpo National Univ.
962-27 Yong Dang 1
Dong Mokpo Korea
(0631)-73-5466



최 성기(崔聖基)
Choi Sung Gi
Student
Architecture
Mokwon Methodist
College
#277-5 Yongmoon-Dong
So-Gu Taejon Korea
001-8242
45-5658



고 석두(高錫杜)
Go Seok Du
Student
Pharmacy
Jeonju Woosuk Univ.
112-3 Seoseohakdong
Jeon Ju-City Jeon Buk
Korea
(0652)83-4170



한 철수(韓哲洙)
Han Cheo Iosu
Student
Dept. of Physics
Myong Ji University
660 Bunjijunha2-Dong
Ulsan-City
Kyongsangnam-Do
(0522)34-8558



홍 준기(洪俊基)
Hong June Ki
Student
Dept. of Physics
Aju University
519-22 Cheolsan3-Dong
Kwangmyung Kyongki-Do
Korea
(02) 682-2548 (02) 544-5464



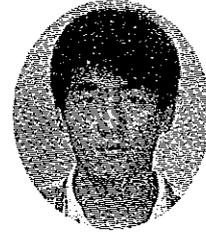
진 성수(陳聖秀)
Jin Seong Su
Student
Electronic Engineering
Cheong Ju University
Chung-Buk-Cheong
Woncounty Buk Il Myeon
Gu Seong Li 331
50-1191 54-2111



강 장훈(姜長勳)
Kang Jang Hoon
Student
Chemical Engineering
Soong Sil University
646-182 Shin-Lim 3 Dong
Kwan-Ack Gu Seoul
Korea
(02) 855-6000



김 은일(金殷鎰)
Kim Eun Ii
Student
Metal Eng.
Kuk Min University
458 Yuklyong-Ri Gumwang
Eup Eumsung-Gun
Chung Buk-Do
(0443) 78-1016



김 수희(金樹熙)
Kim Soo Hee
Student
Electronics
Ulsan University
Ulgu-Gun Onyang-Myeong
Daeam-Lik 478 Bunji
Kyeong Nam Prouince



권 경순(權慶純)
Kwon Kyeong Soon
Engineering
Architectural Eng.
Kwan Dong Univ.
1011-2 Bo-Kwang 1-1
Sung-San Myeon Myeong-
Joo Kun Kang-Won Do
Korea
42-9628



이 경재(李慶載)
Lee Gyoung Jai
Student
Mechanicals Engineering
Hong Ik University
43-10 Jun Nong 3 Dong
Dong Dae Moon Ku
Seoul



이 재철(李在喆)
Lee Jae Cheol
Student
Physics
Chung Buk Univ.
662-19 11-2 Naedeok
Dong Cheongju-City
Chung Buk Univ.
(0431) 52-8066



최 명진(崔明鎭)
Choi Myeoung Jin
Student
Computer Science Engineering
Han Nam University
300-100 117-17
Jayangdong Dong-Gu
Daejeon Korea
(042-73-2591)



오 진영(吳鎭泳)
Oh Jin Young
Student
Jeon Ju Univ. Physics
Jeon Ju University
753-86 WooA3 Dong
Jeon Ju-City Jeon Buk
Korea
(0652)4-5649



박 민 (朴珉圭)
Park Min Gyu
Student
Dept. of Agronomy
Gyeongsang National
University
801 Sajeong-Ri Beubsu
Myon Haman-Gun Gyeong
Nam Korea (637-830)
(0552) 82-3701 (0592) 54-
82-4253 9943



노 진호(盧辰鎬)
Ko Jin Ho
Student
Dept. of Physics
Incheon University
#317-9 Mja 8 Dong
Dobong-Gu Seoul Korea
(02) 981-1452



신 종모(辛宗謨)
Shin Jong Mo
Student
Dept. of Electronic
Engineering
Kyungwon Univ.
36-25 Dabsibri-2 Dong
Dongdaemun-Gu Seoul
(02) 245-6102



양 기태(梁基太)
Yang Gi Tae
Student
Dept. of Biology
Donguei University
13 Dongdaeshin-1 Dong
Seo-Ku Pusan Korea
(051)-242-2273



송 천홍(宋千弘)
班長
Song Cheon Hong
Teacher
Du San Elementary Sch.
Seo Dai Moon Ku
Hong Eun 2 Dong
8-894 Seoul Korea
385-8403 804-1112
802-9191



박 갑년(朴甲年)
Park Gab Youn
Teacher
Daegu Songmyong
Primary School
1638-5 Daemyong
10-Dong Nam-Gu Daegu
Korea
(053) 66-5111



안 형석(安炯錫)
Ahn Hyeong Suk
Teacher
San Gog Book Primary
School
604Ho 1 Dong Dong Won
Apartment 82-36
Sangokdong Bukgu
Incheon Korea
(032) 523-8272
(032) 522-5094



배 일한(裴一漢)
Bae Il Han
Teacher
Geobang Primary School
3.2 Apt B-201
373-13 Geobang-Dong
Masan Kyungnam Korea
(0551) 46-8872
(0551) 46-7035



장 래흥(張來興)
Chang Rae Heung
Teacher
Cheongju Cheongnam
Primary School
297-84 Tabdong SeoKTb
Apt 4-105
Cheong Ju-City
Chungbuk Korea
(0431)-53-8466
(0431)-56-4530



장 영주(張英周)
Chang Young Ju
Teacher
Shinchon Primary Sch.
Tonam Tenement House
(9-105) 811 Tonam-Dong
Cheju-City (Seoul) Korea
(690-029)
064-52-7838



최 창해(崔昶海)
Choi Chang Hai
Teacher
The Chief of Science
Education
Kanung Elementary Sch.
Kyonggido Uijongbu
Kangungdong Korea
(672-60) 5/4
(0351) 872-8504
(0351) 872-8442



최 형주(崔亨柱)
Choi Hyeong Ju
Teacher
Dept. of Science
Songhak Elementary
School
964-7 Songjeong-Dong
Kwangsan-Ku
Kwangju-City Korea
(062)92-6158 (062) 92-
4006



한 상한(韓相翰)
Han Sang Han
Teacher
N/A
Jangjeon Primary Sch.
1001-43 (6-5) Namsan-
Dong Kumjeong-Ku
Pusan-City Korea
(051) 56-5023 (051) 513-
5674



현 상익(玄相益)
Hyun Sang Ick
Teacher
Seoul Seongsan Primary
School
Sang Sudong Mapogu 11-1
Sang Su Apt. C-513
Seoul Korea
(02) 335-3644 (02) 334-8103



장 두석(張斗錫)
Jang Doo Seok
Teacher
Jeomchon Primary Sch.
387-2 Mojeondong
Jeomchon-City
Kyungbuk Korea
0581-53-1828 0581-52-2440



장 규진(張桂珍)
Jang Gye Jin
Teacher
The Instruction Section
Chong Chon Elementary
School
88-7 Bongnam-Ri
Kurye-Up Kurye Gun
Chonnam Korea
0664-2-6260 0664-2-4014



김 우환(金友煥)
Kim Woo Whan
Teacher
Gae Lim Primary School
315 Hojoo-Apt 56-3 Dae
Dodong Pohang City
Gyeongbook Korea
(0562) 74-5487
(0561) 2-2040



이 요균(李堯均)
Lee Yo Kyun
Teacher
Kangneung Teachers
College
14 Tong 8 Ban Kumho-Dong
Sokcho Kagnwon-Do
Korea
32-5031 32-1548



이 용호(李庸浩)
Lee Yong Ho
Teacher
Seoul Shin Hak
Elementary School
Shin-Dong-Ah Apartment
3 Dong 401 Ho Bang Hak
3 Dong Do Bong Gu
Seoul Korea
(02) 907-7056 (02) 905-2802



이 용현(李溶顯)
Lee Yong Hyun
Teacher
Jung Ri Primary School
Gyoung-Seong Apt D-406
Hong Do Dong Dong-Gu
Daejeon Korea
042-72-5996 042-72-7352



임 승태(林承太)
Lim Seung Tai
Teacher
The Chief of Physical
Education
Suwon Maesan Elementary Sch.
107-202 Jugong Apt.
Wooman-Dong
Suwon-City Kyonggi Do
Korea
(0331)35-4817 (0331)42-2502



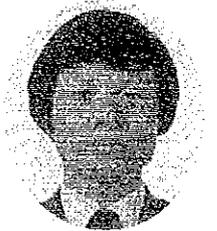
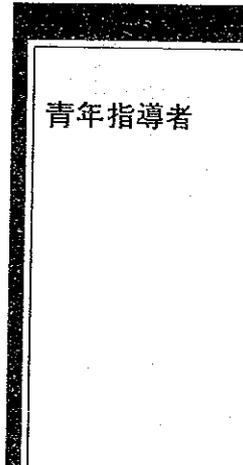
오 선호(吳善鎬)
O Sun Ho
Teacher
Cheonju Dongpuk
Elementary School
1556-41 Keumamn-1-Dong
Cheonju-Shi
Chollapuk-Do Korea
(560-181)
(0652)74-4887
(0652)75-6212



박 기대(朴基大)
Park Gi Dae
Teacher
Sam Chen Po No San
Primary School
476-1 Beal-Li-Dong
Sam Chen Po Kyongnam
Korea
0593-32-0574 0593-32-3602



유 병철(兪炳哲)
Yu Byong Chol
Teacher
Buyo Elementary Sch.
270 Hoedong-Ri
Nam-Myon Buyo-Gun
Chunngcheongnam-Do
Korea
(0463)34-2989 0463-2-2015



박 회정(朴熙正)
Park Hey Jung
Arts Bureau
Ministry of Culture &
Information
1503 Dong-613Ho
Sang Gye-1 Dong
Nowon-Gu Seoul, Korea
931-6052 720-3836



배 성자(裵成子)
Bae Sung Ja
Secretary
Daegu City Council
Girl Scouts of Korea
#907-42 Naedangdong-
3 Dong Ser-Ku Daegucity
(053) 67-0425 (053) 753-3563-4



황 순길(黃順吉)
Hwang Soon Gil
Program Officer
Youth Section
Planned Parenthood
Federation of Korea
452-8 Pukbyun-Ri Kim-
po-Eup Kimpo-Gun
Kyunggi Province
0341-84-2628 02-634-7970



장 동진(張東鎭)
Chang Dong Jin
Assistant Director
Intl Coop. Div.
Ministry of Agri.
Forestry & Fisheries
55-206, Garak Apt.
Gagak-Dong
Songpa-Gu Seoul Korea
(138-160)
400-2177 503-7244



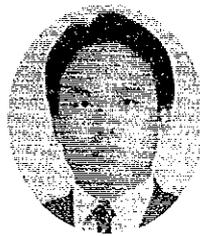
이 학재(李學宰)
Lee Hack Jae
Assistant Director
Arts Bureau
Ministry of Culture &
Information
20/8 285-11 Wolkye Dong No
Won-Gu Seoul Korea
905-9675 720-3820



진 창효(全昌孝)
Jun Chang Hyo
 Assistant Director
 Bilateral Research
 Cooperation
 Ministry of Science &
 Technology
 15/7 470-5 Myonmok 3
 Dong Joongrang Gu
 Seoul Korea (131-203)
 495-9782 503-7668~9



김 승윤(金承潤)
Kim Seung Yoon
 Instructor
 Korea Unesco Youth Center
 Korean National
 Commission for Unesco
 Dongsin Apt. 202-510
 395-3 Jungja-Dong
 Jangan-Ku Suwon-City
 Kyungki-Province Korea
 (0331)46-8934
 (0336)32-9052



이 근재(李根宰)
Lee Geun Jae
 Assistant Director
 Nuclear Safety Div.
 Ministry of Science &
 Technology, Kwacheon
 427-760 Republic of Korea
 (02) 503-7650



이 상구(李相九)
Lee Sang Goo
 Social Worker
 Seoul Association for
 Youth Service
 2-404, Inwang Apt.
 #104 Hong-Jae 4-Dong
 Seo-Daehun-Ku Seoul
 734-1640 266-8247



이 영규(李營圭)
Lee Young Kou
 Teacher
 Mathematics
 Korea High School
 82-40 Nockbun-Dong
 Eunpyung-Gu
 Seoul 122-020 Korea
 (02)-356-7693 914-6294



남 정달(南廷達)
Nam Jeong Dal
 Supervisor for Youth
 Social & Physical Dept.
 Daegu Board of
 Education
 361-152 Ichon 2-Dong
 Nam-Gu Daegu Korea
 001-82-53-627-5293
 (053) 752-9111



박 장열(朴長烈)
Park Jang Yeol
 Youth Exchange Division
 Ministry of Sports
 Joogong Apt. 1616-306
 624 Sanggye Dong
 Nowon Gu Seoul Korea
 934-6817 734-0185



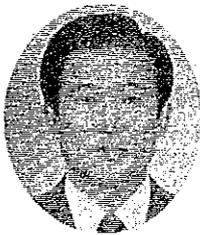
박 상태(朴相泰)
Park Sang Tae
 The Head of A Section
 Dept. of Welfare Development
 Korean Labor Welfare
 Corporation
 163-2 Ho Heug Seog-1-Dong
 Dongjag-Gu Seoul Korea
 888-0280 634-9131-7



박 순태(朴淳泰)
Park Soon Tac
 Vice Director
 Ministry of Sports
 Hong Un Dong 188-29
 Samsung B/L Dong 205 Ho
 Seodaemungu
 Seoul Korea
 353-0856 734-0183



서 정래(徐廷來)
Seo Jeong Rae
 Assistant Director
 Rural Youth Division
 Rural Development
 Administration
 1609-23 Bongcheon-7 Dong
 Kwanak-Gu, Seoul Korea
 (151-057)
 02-882-8490 0331-292-4257



유 창성(劉昌成)
Yoo Chang Sung
 Instructor
 Educational Committee
 of Province
 405-3 Sujong Apt. Na
 Dong 302 Youngwha Dong
 Suwon City Kyunggi
 Province Korea
 0331-42-6286 0331-5-1786

5. 韓国青年招へい実績一覧

●昭和62年度(100名)

	人数	実施協力団体	実施県	JICA支部	地方協力団体	県等窓口機関	プログラム コーディネーター	JICA コーディネーター
勤労青年	35	青少年育成国民 会議	神奈川	関東	韓国青年歓迎委 員会	神奈川県県民部 青少年室	黒沢郁夫	浜岡美知枝 森下隆雄 金 勝汎
農村青年	25	中央青少年団体 連絡協議会	青森	東北	青森県青少年団 体連絡協議会	青森県総務部文 書課国際交流班	佐藤忠良	牛尾恵子 榎本美和
青年指導者A	20	中央青少年団体 連絡協議会	栃木	関東	栃木県青少年団 体連絡協議会	栃木県県民生活 部婦人青少年課	西広咲子	坂板純義 坂本由紀恵
青年指導者B	20	国際交流サー ビス協会	福岡	九州	福岡県海外協会	福岡県企画振興 部国際交流課	増田忠幸	相田欣乃 松本周司

*青年指導者Bグループには、団長・副団長・幹事が含まれる。

●昭和63年度(99名)

	人数	実施協力団体	実施県	JICA支部	地方協力団体	県等窓口機関	プログラム コーディネーター	JICA コーディネーター
教員A (小学校教師)	25	中央青少年団体 連絡協議会	岩手	東北	岩手県青年団協 議会	総務部総務学事 課国際交流係	佛木 完	浜岡美知枝 坂板純義
教員B (中学校教師)	25	青少年育成国民 会議	和歌山	関西	和歌山県海友会	民生部青少年婦 人課	趙 南星	森下隆雄 榎本美和
教員C (高等学校教師)	24	国際交流サー ビス協会	長崎	九州	長崎県海外協会	企画部国際交流 課	原谷治美	牛尾恵子 金 鍾憲
学生(文科系)	25	世界青少年交流 協会	岐阜	中部	日本国際連合協 会岐阜県本部	総務部総務課	臼井千里	坂本由紀恵 徐 俟煥

*団長は教員Bグループ、副団長は教員Cグループ、幹事は教員Aグループおよび学生グループに1名ずつ含まれる。

●平成元年度(99名)

	人数	実施協力団体	実施県	JICA支部	地方協力団体	県等窓口機関	プログラム コーディネーター	JICA コーディネーター
勤労青年	31	勤労厚生協会	宮城	東北	仙台青年会議所	国際交流室	青山富士彌 寺井 昇	森本隆雄 榎本美和
学生	30	世界青少年交流 協会	香川	四国	香川県海外派遣 友の会	民生部青少年対 策室	臼井千里	坂本由紀恵 片 頼玉
教員	20	国際交流サー ビス協会	北海道	北海道	北海道青少年団 体連絡協議会	総務部知事室国 際交流課	原谷治美	浜岡美知枝 徐 俟煥
青年指導者	18	青少年育成国民 会議	島根	中国	島根県国際交流 青友会	総務部総務課	湊 明弘	牛尾恵子 高 龍煥

*勤労青年グループに団長・幹事、学生グループに副団長、勤労青年グループに幹事が含まれる。

6. 平成元年度青年招へい事業受け入れ実績一覧

受け入れ時期	国名	分野名	人数	実施協力団体	実施県
5月23日～6月22日 1陣 97名	フィリピン	学生	14	青少年育成国民会議	和歌山 三重 新潟 鹿児島 広島
	//	教員	24	日本青年団協議会*	
	シンガポール	学生	15	世界青少年交流協会	
	//	教員	20	国際交流サービス協会	
	//	公務員I	24	ユースワーカー能力開発協会	
6月6日～7月6日 2陣 144名	ASEAN混成	学生	30	世界青少年交流協会	北海道 栃木 富山 山口 山形 石川
	ブルネイ	教員・学生	20	国際交流サービス協会	
	インドネシア	学生	25	世界青少年交流協会	
	//	教員	24	中央青少年団体連絡協議会	
	フィリピン	勤労青年(農業系)	20	青年海外協力協会	
6月27日～7月27日 3陣 119名	ASEAN混成	公務員I	30	青少年育成国民会議	九州 長野 大分 愛知 福島
	マレーシア	学生	20	日本ユース・ホステル協会*	
	//	教員	19	日本国際生活体験協会	
	タイ	勤労青年	25	勤労厚生協会	
	//	学生	25	ユースワーカー能力開発協会	
7月11日～8月10日 4陣 99名	韓国	勤労青年	31	勤労厚生協会	宮城 香川 北海道 島根
	//	学生	30	世界青少年交流協会	
	//	教員	20	国際交流サービス協会	
	//	青年指導者	18	青少年育成国民会議	
8月22日～9月21日 5陣 110名	ASEAN混成	公務員II	30	国際交流サービス協会	沖縄 岐阜 北海道 秋田 大阪
	インドネシア	公務員	25	勤労厚生協会	
	//	テーマ(B)	15	青年海外協力協会	
	タイ	農村青年	25	全国農村青少年教育振興会	
	//	テーマ(A)	15	世界青少年交流協会	
8月29日～9月28日 6陣 126名	ブルネイ	テーマ(A)	9	日本経済青年協議会	茨城 大分 山梨 宮崎 静岡 徳島
	マレーシア	テーマ(B)	21	全国農村青少年教育振興会	
	//	青年指導者	25	中央青少年団体連絡協議会	
	シンガポール	勤労青年	24	ユースワーカー能力開発協会	
	//	公務員II	24	国際交流サービス協会	
	//	青年指導者	23	日本国際生活体験協会	
10月3日～11月2日 7陣 84名	P N G	教員	20	国際交流サービス協会	福岡 佐賀 鳥取 岩手 青森
	//	青年指導者	14	日本青年団協議会*	
	フィジー	公務員	12	日本経済青年協議会	
	太平洋混成	教員	13	日本ユネスコ協会連盟*	
	//	公務員	25	世界青少年交流協会	
10月17日～11月16日 8陣 202名	ASEAN混成	教員	30	日本ユネスコ協会連盟*	群馬 滋賀 群馬 兵庫 長崎 大阪 高知 石川 熊本
	インドネシア	勤労青年	26	中央青少年団体連絡協議会*1	
	//	テーマ(A)	14	勤労厚生協会	
	マレーシア	テーマ(A)	20	日本経済青年協議会	
	//	公務員	25	世界青少年交流協会	
	フィリピン	テーマ(A)	20	青少年育成国民会議	
	//	勤労青年(産業系)	27	日本経済青年協議会	
	タイ	青年指導者	25	日本国際生活体験協会	
//	テーマ(B)	15	青年海外協力協会		
2月26日～3月28日 9陣 50名	中国	経済青年	25	青少年育成国民会議	静岡 宮崎
	//	青年指導者	25	ユースワーカー能力開発協会	
合計	ASEAN 6カ国 (798) 太平洋諸国 (84) 韓国 (99) 中国 (50) 47グループ 1031名				

(注) *は平成元年度事業における新規の実施協力団体 *1: 実質的には友愛青年連盟が担当
 テーマA: ハイテク・科学技術産業の現状 テーマB: 地方の農業・地場産業振興

7. 青年招へい事業実施協力団体連絡先

(財)青少年育成国民会議 (National Assembly for Youth Development NAYD) 〒151 渋谷区代々木神園町3-1 国立オリンピック記念青少年総合センター 中央青少年団体連絡協議会 (National Council of Youth Organizations in Japan) 〒160 新宿区霞ヶ丘町15 日本青年館5階	TEL460-4151
(財)世界青少年交流協会 (The World Youth Visit Exchange Association WYVEA) 〒102 千代田区平河町2-7-3 吉田ビル2階	TEL262-6301
(財)日本国際生活体験協会 (Japanese Association of The Experiment in International Living EIL) 〒102 千代田区麹町4-5 橋ビル6階	TEL261-3451
(財)全国農村青少年教育振興会 (The Rural Youth Education Development Association) 〒162 新宿区新小川町4-19 末ビル3階	TEL235-7461
(財)日本経済青年協議会 (Junior Executive Council of Japan JEC) 〒151 渋谷区代々木神園町3-1 国立オリンピック記念青少年総合センター	TEL469-2381
(財)勤労厚生協会 (The Working Youth Welfare Association) 〒151 渋谷区代々木神園町3-1 国立オリンピック記念青少年総合センター	TEL469-6421
(財)ユースワーカー能力開発協会 (Development Association for Youth DAY) 〒105 港区新橋1-1-1 日比谷ビル6階	TEL508-2048
(財)国際交流サービス協会 (International Hospitality and Conference Service Association IHCSA) 〒100 千代田区霞ヶ関2-2-1 外務省第一別館	TEL580-1621
(財)青年海外協力協会 (Japan Overseas Cooperative Association JOCA) 〒106 港区南麻布5-10-24 第2佐野ビル7階	TEL446-3651
日本青年団協議会 (Japan Seimeidan Council) 〒160 新宿区霞ヶ丘町15 日本青年館2階	TEL475-2491
(財)日本ユネスコ協会連盟 (National Federation of UNESCO Associations in Japan) 〒163 新宿区西新宿1-25-1 新宿センタービル38階	TEL340-3921
(財)日本ユース・ホステル協会 (Japan Youth Hostels, Inc.) 〒162 新宿区市谷砂土原町1-2 保健会館	TEL269-5831
(財)国際協力サービス・センター (International Cooperation Service Center ICSC) 〒162 新宿区市谷本村町42 経済協力センタービル別館	TEL355-6491
早稲田大学国際交流センター (Waseda University International Center) 〒169 新宿区西早稲田1-6-1	TEL203-7747
日本武道館 (Nippon Budokan) 〒102 千代田区北の丸公園2-3	TEL216-5137

韓国青年招へい事業 (1989)

平成2年3月31日

発行 国際協力事業団

〒163 東京都新宿区西新宿2-1-1

新宿三井ビル内

電話 (03) 346-5402~4

編集 財団法人国際協力サービス・センター

〒162 東京都新宿区市谷本村町42

経済協力センタービル

電話 (03) 355-6491

無断転載を禁じます。

